

総合所見

校種	小学校	種目	「理科」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①単元の目標の示し方	○単元のねらいの示し方	
	②知識や概念の定着を図り，理解を深めるための工夫	○用語の定着を図る工夫，単元末のまとめの扱い	
	③観察，実験の技能を習得させるための工夫	○観察，実験の数，観察，実験の準備と手順の扱い，観察，実験における安全確保及びアルコールランプの操作の扱い	
	④環境保全に寄与する態度の育成を図る工夫	○環境保全に係る単元構成と事例	
主体的に学習に取り組む工夫	⑤興味・関心を高めるための工夫	○日常生活や社会との関連付けを図る内容の扱い及び具体例 ○興味・関心を高める問いかけの工夫及び単元の導入の工夫	
	⑥問題解決の能力を育成するための工夫	○学習の進め方の示し方，問題解決の過程，課題発見の工夫，問題解決の能力の育成の扱い	
内容の構成・配列・分量	⑦単元や資料等の配列の工夫	○判，ページ総数，単元の数，単元以外の数と具体的内容	
	⑧補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述	○補充的な学習や発展的な学習の内容と分量	
	⑨ものづくりの数と内容	○ものづくりの数と内容	
内容の表現・表記	⑩本文記述との適切な関連付けがなされた写真及び資料等の取り扱い方	○巻頭・巻末等の資料の扱い，イラスト・写真・図表等の示し方の工夫	
言語活動の充実	⑪観察，実験の結果を整理し，考察する学習活動の工夫	○考察文の記述例及び考察文の要素	
	⑫科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫	○話合いや説明の活動を促す工夫とその具体例	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・単元のねらいは、「～でしょうか」という問いかけや、「これから、～について調べていきましょう」という呼びかけで、文で提示されている。</p> <p>② ・基本的な用語は、ゴシック体で、ルビが表記されている。また、巻末に、領域ごとに「学習した理科の言葉」のコーナーがあり、言葉のまとめが教科書記載ページ数とともに示されている。 ・単元末に、学習内容を確認する問題が提示されている。</p> <p>③ ・<観察、実験の数>3年生(28)4年生(36)5年生(27)6年生(30) ・準備物の表記があり、各準備物にチェック欄がある。 ・手順は、番号と文章、図や写真で示され、矢印でつながれ、視覚的に手順がよく分かる工夫がされている。 ・安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 ・アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。</p> <p>④ ・人と環境とのかかわりを調べ、地球で生きていくための「行動宣言書」を作成するようになっている。 ・人と自然が相互に関わり合っているという視点から、人が自然に及ぼす影響だけでなく、自然が人に及ぼす事例(自然災害等)が取り上げられている。 ・「理科ひろば」で環境保全に対する意識を高める内容が取り上げられている。 ・「木」のマークが設定され、観察の際、生命や自然を大切にしよう呼びかける記述がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ⑤ ・「理科ひろば」のコーナーでは、学習内容と職業や社会の取組を関連付けたコラムが紹介されている。 ・単元の導入では、学習内容につながる自然現象や実験・観察の写真が数枚提示されている。</p> <p>⑥ ・学習の進め方は、「理科の世界にとび出そう!」のコーナーが設けられ、3年生のみ本文の途中に、他学年は巻頭に示されている。 ・単元の問題解決の過程は、問題→予想しよう→活動→観察・実験→考えよう→まとめとして示されている。また、各過程が単元ごとに大きく太字で書かれているため、視覚的にも流れが分かりやすくなるよう工夫されている。 ・課題発見については、「思い出そう」と既習事項や生活経験を想起させたり、比較したりできる写真が示されている。 ・予想させる場面では、先生のイラストで理由や考えをもたせる発問がある。また、自分の予想を確かめるための実験方法を考えさせる呼びかけがある。 ・考察する場面では、予想したことと比べて考えるように示されている。まとめの後に「説明しよう」と学習したことを活用して考えさせるための記述がある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・AB判 ページ総数 3年生(156)4年生(184)5年生(168)6年生(208) 単元数 3年生(14)4年生(16)5年生(10)6年生(12) ・各学年に制作資料がついている。また、資料として巻末に記録の取り方や、実験道具の使い方が示されている。</p> <p>⑧ ・<補充的な学習の内容と分量>「理科のひろば」のコーナーで、学んだことを生かした補充的な学習内容が記述されている。 ・事例数 3年生(14)4年生(20)5年生(20)6年生(28) ・<発展的な学習の内容と分量>「はってん」のマークで示し、「もっと調べてみたいときにチャレンジしよう(全員が学習しなくてもよい内容です)」と説明がある。 ・事例数 3年生(2)4年生(7)5年生(5)6年生(13)</p> <p>⑨ ・<ものづくりの数>3年生(12)4年生(5)5年生(11)6年生(4) ・<内容例:3年生>・風やゴムのおもちゃ ・電気のおもちゃ ・じしゃくのおもちゃ ・昆虫の切り紙作り 等</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑩ ・4~6年生の巻頭には、「理科の世界にとび出そう!」で学習の進め方が示されている。 ・巻末には、「理科の調べ方を身につけよう」を設け、ノート書き方、話し合いの仕方、顕微鏡の使い方、理科室の使い方、様々な実験器具の使い方、施設の利用、算数の学習を活用しようなどが紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた視覚的に分かりやすい大きな写真やイラストが多く掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・考察文は「!まとめ」という項目で大きく特徴的に示している(文体は敬体) ・<記述例>風が強いほうが、物を動かすはたらきは、大きくなります。(3年生) ※結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論が含まれている。</p> <p>⑫ ・観察・実験の後の考察の場面で「考えよう」という項目が全ての内容に設定されている。 ・実験をもとにした考察は記述しておらず、児童に話し合いや説明の活動をしながら考察させる形になっている。 ・単元によっては、「問題をつかもう」「予想しよう」という項目が設定されている。 ・発展学習として「説明しよう」「たしかめよう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> 右の写真のように、ピンポン球がへこんでしまったとき、もとの形にもどすには、どうすればよいか説明しましょう。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
大日本	<p>1 ① ・単元のねらいは、ほとんどの単元で「～だろうか」という問いかけで、文で提示されている。</p> <p>② ・基本的な用語は、ゴシック体で表記されている。また、巻末の「ふりかえろう」のコーナーで、単元ごとに学習内容をまとめ、基本的な用語が穴埋め形式で問われている。 ・単元末に、学習内容を確認する問題が提示されている。</p> <p>③ ・<観察、実験の数>3年生(34)4年生(39)5年生(28)6年生(25) ・準備物の表記は、準備物のコーナーではなく、本文に示されている。 ・手順は、番号と文章、図や写真で示されている。 ・安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと囲みで示されている。 ・アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。</p> <p>④ ・生物は水がないと生きられないことを押さえた上で、水・空気・生物との関わりについてまとめ、私たちは地球環境にどのように関わればよいか調べる流れになっている。水との関わりが大きく取り上げられている。 ・「理科のたまたまばこ」では、環境やエネルギーに関する内容が取り上げられている。 ・「資源と人」「環境」のマークが設定され、環境に関する読み物がある。</p>
	<p>2 ⑤ ・「理科のたまたまばこ」「ジャンプ」のコーナーでは、学習内容と生活とのつながりについて、「理科と人」のコーナーでは、科学者・技術者の功績について紹介されている。「学んだことをいかそう」のコーナーでは、学習内容を生活につなげて考えた問いが設定されている。 ・単元の導入では、見開きで学習内容につながる自然の写真が提示されている。</p> <p>⑥ ・学習の進め方は、「理科の学び方」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 ・単元の問題解決の過程は、記号「?」や「よそうしよう」「かんさつ」「考えよう」「わかったこと」とし、色を変えて示されている。 ・課題発見については、どの単元にも問いがある。生活を想起させたり、状況の違う2枚の写真が示されたりしている。 ・予想の場面では、子どもが理由を述べているイラストがある。 ・考察の場面では、子どものイラストが吹き出しで考えを述べている。「結果」からすぐに「分かったこと」につなげているものもある。</p> <p style="text-align: right;">【O】</p>
	<p>3 ⑦ ・AB判 ページ総数 3年生(140)4年生(176)5年生(168)6年生(188) ・単元数 3年生(14)4年生(16)5年生(11)6年生(12) ・3年生のみ最後にシールや動植物の観察シートがある。 ・単元末の「ふりかえろう」で学年ごとに学習した内容をまとめられるようにしてある。巻末には最後のページに次の学年で学習する内容が紹介されている。</p> <p>⑧ ・<補充的な学習の内容と分量>「しりょう りかのたまたまばこ」のコーナーで、学んだことを広げたり深めたりする内容が紹介されている。 ・事例数 3年生(20)4年生(27)5年生(34)6年生(33) ・<発展的な学習の分量と内容>巻頭に「ジャンプ」「はってん」のマークで、「学習指導要領には示されていない内容ですべての児童が一律に学習する必要はない」と説明がある。 ・事例数 3年生(5)4年生(14)5年生(10)6年生(28)</p> <p>⑨ ・<ものづくりの数>3年生(19)4年生(4)5年生(9)6年生(5) ・<内容例:3年生>・ゴムや風で動くおもちゃ ・豆電球のおもちゃ ・じしゃく等</p> <p style="text-align: right;">【O】</p>
	<p>4 ⑩ ・各学年の巻頭には、「理科の学び方」が示され、6年生には「私たちの生活と環境」の欄が設けられている。 ・巻末には「ふりかえろう」を設け、学習したことの簡単な確認ができる。また、次の学年の学習内容が紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた児童のレポートや実験結果の記述例が多く記載されている。</p> <p style="text-align: right;">【O】</p>
	<p>5 ⑪ ・考察文は、「わかったこと」という項目で星マークを付けて示されている。(文体は3年生は敬体、4年生以上は常体) ・<記述例>風の強さによって、ものうごき方がかわります。強い風のほうが、大きくうごきます。(3年生) ※結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。</p> <p>⑫ ・予想の場面で「予想しよう」という項目が全ての場面に設定されている。 ・内容によっては、課題を見付ける場面で「話し合おう」、実験を計画する場面で「計画を立てよう」、考察の場面に「考えよう」という項目が設定されている。 ・発展学習として「学んだことを生かそう」という項目が設定されている。 <説明させる活動の具体例> ペットボトルの中の空気の様子を説明しよう。</p>

発行者	総合的な所見
学図	<p>1 ① ・単元のねらいは、「～でしょうか」という問いかけや、「これから、～について調べていきましょう」という呼びかけで、文で提示されている。 ・小単元の見出しと写真で学習の流れが示されている。</p> <p>② ・基本的な用語は、本文より大きなサイズのゴシック体で、ルビが表記されている。また、基本的な用語が出たページに「ことば大事な言葉」コーナーがある。 ・4～6年生の単元末の「ふりかえてみよう」のコーナーの下欄に「大事な言葉」の一覧があり、用語の定着を図るための振り返りの工夫がされている。 ・単元末に学習内容を確認する問題が提示されている。</p> <p>③ ・<観察、実験の数>3年生(31)4年生(38)5年生(23)6年生(32) ・準備物の表記があり、各準備物にチェック欄がある。 ・手順は、番号と文章、図や写真で示されている。 ・安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 ・アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が5段階で示されている。具体的な注意事項がある。</p> <p>④ ・空気・水・植物と人との関わり・汚した場合に及ぼす影響や、自然環境を守る取組について調べる流れになっている。 ・他単元で外来生物の扱いに触れられている。 ・「双葉」マークが設定され、観察で気をつけること、資源や環境に関する読み物が記述されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ⑤ ・「仕事に生かすくらしに生かす」のコーナーでは、仕事や生活との関連が紹介されている。 ・単元末の「活用しよう」のコーナーでは、学習内容を生活につなげて考える場が設定されている。 ・単元の導入の前に扉のページがあり、学習内容につながる自然の写真が提示されている。</p> <p>⑥ ・学習の進め方は、「科学の芽を育てよう」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 ・単元の問題解決の過程は、記号「？」や「話し合い」「実験」「結果」「考察」「まとめ」とし、学びの流れのマークで示され、ページの端に整理されている。 ・課題発見については、既習事項や生活経験を想起させたりしている。 ・予想の場面では、「話し合い」を設定しており、生活場面での経験や理由を確認させるようにしている。 ・考察の場面では、実験結果から考察、まとめがノートに書いてあるように示されたものもある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・AB判 ページ総数 3年生(156)4年生(184)5年生(168)6年生(208) ・単元数 3年生(15)4年生(15)5年生(11)6年生(10) ・各学年で栽培する植物カレンダーが目次の次に記載されている。 ・巻末に「考えよう調べよう」として「見つける」「伝える・聞く」「かんさつ」「記ろく」「調べる」「まとめ」「道具の使い方」が記載されている。</p> <p>⑧ ・<補充的な学習の内容と分量>「読み物」「しりょう」「やってみよう」のコーナーに関連する読み物やしりょう、さらに調べてみるものが紹介されている。 ・事例数 3年生(20)4年生(23)5年生(30)6年生(37) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に発展を示す記号があり、「本学年の指導要領外の内容を扱ったもので、児童の興味・関心に応じて利用するように」と説明がある。 ・事例数 3年生(2)4年生(3)5年生(7)6年生(13)</p> <p>⑨ ・<ものづくりの数>3年生(15)4年生(5)5年生(3)6年生(2) ・<内容例：3年生>・ゴムの力で動く車 ・風車 ・風の力で動く車 ・スイッチの工夫 ・じしゃく等</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑩ ・各学年の巻頭には、自然事象をよんだ詩、「科学の芽を育てよう」「今までの学習を思い出してみよう」の欄が設けられている。 ・巻末には「考えよう調べよう」で、「見つける」「伝える・聞く」「記録する」「調べる」「まとめる」など、学習の進め方が紹介されている。実験器具の使い方もまとめて紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた視覚的に分かりやすい大きな写真が多く掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・考察文は、まず「～か？」と問いかけの文で示されている。(文体は敬体) ・<記述例>風が強いほど風車は、はやく回ります。また、風が強いほど、じくを触ったときのごたえは強く、回っているときの音も大きくなります。(3年生) ※実験結果と関連付けて結論が示されている単元もある。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。</p> <p>⑫ ・話し合いや説明の活動をする場として「話し合い」という項目が設定されている。 ・「話し合い」は、問題をもとに予想をしたり、実験方法を考えたりする場面や新たな問題を考える場面で内容に応じて設定されている。 ・発展学習として「ふりかえてみよう」「活用しよう」「活用学びを生かそう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> びんなどの金ぞくのふたがあかないとき、写真のようにふたの部分を湯であためると、ふたがあけやすくなることもある。ものの体積と温度に関係づけて説明してみましょう。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
教出	1 ① ・単元のねらいは、「～でしょうか」という問いかけや、「これから、～について調べていきましょう」という呼びかけで、文で提示されている。 ② ・基本的な用語は、ゴシック体で、ルビが表記されている。また、巻末に、「この1年間で学んだこと」のコーナーとして、単元ごとに要点がまとめられている。 ・単元末に、学習内容を確認する問題が提示されている。 ③ ・<観察、実験の数>3年生(33)4年生(34)5年生(26)6年生(25) ・準備物の表記がある。 ・手順は、番号と文章、図や写真で示されている。 ・安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 ・アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。 ④ ・食べ物をたどることから、食物連鎖を学習し、空気・水との関わりに広げていくようになっていく。 ・巻末に「かんきょうミニずかん」があり、環境保全に関する取組、小学生の取組が紹介されている。 ・他単元でも「資料」として環境保全や地球に優しい新技術を取り上げ、紹介している。 ・「地球となかよし」マークが設定され、環境に関する読み物や自然観察の際の配慮点が記述されている。
	2 ⑤ ・「科学のまど」「資料」のコーナーでは、学習内容と生活の事象や人物との関わりが紹介されている。 ・単元末「学んだことを使おう」では、生活につながる問題が設定されている。 ・単元の導入には、学習内容につながる自然現象や実験の写真が提示され、「～が見られます」「～があります」等のコメントが付けられている。 ⑥ ・学習の進め方は、「学習の順序」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 ・単元の問題解決の過程は、「はてな?」「調べよう」「調べた結果」「分かった」とし、キャラクターのマークで流れが示されている。 ・課題発見については、3年生は生活科の学習内容や生活経験を想起させ、4年生からは前学年の内容が示されている。 ・予想の場面では、予想は子どもの吹き出しで示され、その根拠も紹介されている。実験方法を計画させるように「計画しよう」という見出しがある。 ・考察の場面では、自分の予想と同じかどうかを考えるように示されているものもある。 <p style="text-align: right;">【○】</p>
	3 ⑦ ・AB判 ページ総数 3年生(180)4年生(208)5年生(196)6年生(206) 単元数 3年生(14)4年生(17)5年生(14)6年生(11) ・各学年で巻末に図鑑があり、それぞれの内容が記されている。 ⑧ ・<補充的な学習の内容と分量>「しりょう」「科学のまど」「チャレンジ」のコーナーで学習に役立つ資料や学んだことと関連する話が紹介されている。 ・事例数 3年生(31)4年生(27)5年生(41)6年生(37) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に「はってん」のマークで、「もっと学習したいときに、ちょうせんしてみよう」と説明がある。 ・事例数 3年生(2)4年生(10)5年生(12)6年生(14) ⑨ ・<ものづくりの数>3年生(9)4年生(6)5年生(6)6年生(2) ・<内容例：3年生>・ゴムや風で動くおもちゃ ・作って遊ぼう ・懐中電灯 ・電気迷路 ・パトカー ・魚釣りゲーム ・かえるレース ・回路つなぎゲーム 等 <p style="text-align: right;">【○】</p>
	4 ⑩ ・各学年の巻頭には、自然科学の様々な分野の達人の「ミニメッセージ」と「学習の進め方」が設けられている。 ・巻末には、顕微鏡や双眼鏡の使い方、月や太陽の位置の調べ方、「この1年間で学んだこと」として簡単な確認ができ、さらに、「かんきょうミニずかん」「中学校で学ぶこと」が示されている。 ・本文との関連付けがなされた写真やイラストが掲載されている。 <p style="text-align: right;">【○】</p>
	5 ⑪ ・考察文は、「わかった」という項目でキャラクターを付けて示されている。(文体は常体) ・<記述例>弱い風よりも強い風を当てたときのほうが、ほかけ車が動くきよりは長くなる。(3年生) ※結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。 ⑫ ・問題を考える場面で「やってみよう」、予想する場面で「予想しよう」、実験を計画する場面で「計画しよう」、考察する場面で「結果から考えよう」という項目が、内容に応じて必要なものが設定されている。 ・発展学習として「学んだことを使おう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> つぶれたピンポン球を湯につけると、元の形にもどります。これはなぜですか。「空気」という言葉を使って説明しましょう。

発行者	総合的な所見
信教	<p>1 ① 実物がないため確認できない。</p> <p>② 実物がないため確認できない。</p> <p>③ 実物がないため確認できない。</p> <p>④ 実物がないため確認できない。</p>
	<p>2 ⑤ 実物がないため確認できない。</p> <p>⑥ 実物がないため確認できない。</p>
	<p>3 ⑦ 実物がないため確認できない。</p> <p>⑧ 実物がないため確認できない。</p> <p>⑨ 実物がないため確認できない。</p>
	<p>4 ⑩ 実物がないため確認できない。</p>
	<p>5 ⑪ 実物がないため確認できない。</p> <p>⑫ 実物がないため確認できない。</p>

発行者	総合的な所見
啓林館	<p>1 ① ・単元のねらいは、「～だろうか」という問いかけや、「～を調べよう」という呼びかけで、文で提示されている。 ・「学習のめあて」のコーナーが設けられており、学習のねらいが簡潔に示されている。</p> <p>② ・基本的な用語は、ゴシック体で、ルビとともに点線のアンダーラインで表記されている。また、単元末には、その単元で新しく学習した言葉が単語カードでまとめられている。 ・単元末に、学習内容を確認するまとめ方の例や問題が提示されている。</p> <p>③ ・<観察、実験の数> 3年生(29) 4年生(32) 5年生(19) 6年生(25) ・準備物の表記がある。 ・手順は、番号と文章、図や写真で示され、点線矢印でつながれ、視覚的に手順がよく分かる工夫がされている。 ・安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 ・アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。</p> <p>④ ・自然とともに生きるという視点から、自分たちが日々取り組めるような身近な内容が取り上げられている。 ・人と自然との関わりを示す写真がある。 ・他単元でも「広げよう」で自然を生かした環境保全について紹介されている。 ・「木」のマークが設定され、観察の際自然や生命を大切にしようと呼びかける記述がある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ⑤ ・「ひろげよう」「理科の広場」のコーナーでは、学習内容と生活とのつながりが紹介されている。また、そこで働く人のコメントが載せられている。 ・単元の導入は見開きで、学習内容につながる自然現象や実験観察の大きな写真が提示されている。</p> <p>⑥ ・学習の進め方は、「学習の進め方」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 ・単元の問題解決の過程は、記号「？」や「話し合い」で予想、「実験」「結果」「考察」「話し合い」「まとめ」としている。 ・予想や実験方法を考えさせる表記が多く、予想の根拠が吹き出して記述され、根拠を考えさせるよう工夫がされている。 ・課題発見については、問題を「？」マークで示し、問題を見いだす写真や既習事項を想起させる表示がある。 ・考察する場面では、結果を話し合う記述や、予想と比較して考察するための記述がされている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・AB判 ページ総数 3年生(162) 4年生(186) 5年生(194) 6年生(210) 単元数 3年生(13) 4年生(16) 5年生(11) 6年生(10) ・学習前に経験や既習事項を振り返り、問題を見いだすようにさせたり、単元終末での振り返りを記録させたりする冊子「わくわく理科プラス」が付いている。</p> <p>⑧ ・<補充的な学習の内容と分量>「理科のひろば」で学習に役立つ資料、「広げよう」「やってみよう」では、興味をもたせる内容が紹介されている。 ・事例数 3年生(21) 4年生(42) 5年生(28) 6年生(45) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に「発展」のマークで、「よゆうがあったら、チャレンジしよう。(中学校の理科で学習する内容も含みます)」と説明がある。 ・事例数 3年生(5) 4年生(7) 5年生(10) 6年生(15)</p> <p>⑨ ・<ものづくりの数> 3年生(18) 4年生(8) 5年生(10) 6年生(3) ・<内容例：3年生> ・プロペラで動く車 ・おもちゃランドへようこそ等</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑩ ・各学年の巻頭には、自然の写真が見開きで示されている。 ・巻末には、算数で学んだことが理科でも生かせる「理科につながる(算数のまど)」が設けられている。 ・「地域資料集」として、全国各地の地域の自然が紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた写真やイラストが掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・考察文は、3・4年生「結果からわかること」5・6年生「考察」という項目で示されている。(文体は、3年生は敬体、4年生以上は常体) ・<記述例>風が強いときは、風が弱いときとくらべて、車は遠くまで走りました。このように、風にはものを動かす力があり、風の強さがかわると、ものを動かす力の強さもかわります。(3年生) ※実験結果と関連付けて結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。</p> <p>⑫ ・話し合いや説明の活動をする場として「話し合い」という項目が設定されている。 ・「話し合い」は、問題を見付ける場面、問題をもとに予想したり、実験方法を考えたりする場面、観察・実験結果をもとに考察する場面で設定されている。 ・観察・実験の前後に設定している場合も多く、比較的設定数が多い。 ・発展学習として「力だめし」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> よく晴れた夏の日に海に行ったとき、砂浜に置いていたビーチボールを海水につけると、ボールがやわらかくなりました。そのわけを説明しましょう。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

【観点1】 基礎・基本の定着

	①	②	③	④
視点	単元の目標の示し方	知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫	観察、実験の技能を習得させるための工夫	環境保全に寄与する態度の育成を図る工夫
方法	単元のねらいの示し方	用語の定着を図る工夫、単元末のまとめの扱い	観察、実験の数、観察、実験の準備と手順の扱い、観察、実験における安全確保及びアルコールランプの操作の扱い	環境保全に係る単元構成と事例
東書	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいは、「～でしょうか」という問いかけや、「これから、～について調べていきましょう」という呼びかけで、文で提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用語は、ゴシック体で、ルビが表記されている。また、巻末に、領域ごとに「学習した理科の言葉」のコーナーがあり、言葉のまとめが教科書記載ページ数とともに示されている。 単元末に、学習内容を確認する問題が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> <観察、実験の数>3年生(28)4年生(36)5年生(27)6年生(30) 準備物の表記があり、各準備物にチェック欄がある。 手順は、番号と文章、図や写真で示され、矢印でつながれ、視覚的に手順がよく分かる工夫がされている。 安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と環境とのかかわりを調べ、地球で生きていくための「行動宣言書」を作成するようになっている。 人と自然が相互に関わり合っているという視点から、人が自然に及ぼす影響だけでなく、自然が人に及ぼす事例(自然災害等)が取り上げられている。 「理科ひろば」で環境保全に対する意識を高める内容が取り上げられている。 「木」のマークが設定され、観察の際、生命や自然を大切にしよう呼びかける記述がある。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいは、ほとんどの単元で「～だろうか」という問いかけで、文で提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用語は、ゴシック体で表記されている。また、巻末の「ふりかえろう」のコーナーで、単元ごとに学習内容をまとめ、基本的な用語が穴埋め形式で問われている。 単元末に、学習内容を確認する問題が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> <観察、実験の数>3年生(34)4年生(39)5年生(28)6年生(25) 準備物の表記は、準備物のコーナーではなく、本文に示されている。 手順は、番号と文章、図や写真で示されている。 安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと図みで示されている。 アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物は水がないと生きられないことを押さえた上で、水・空気・生物との関わりについてまとめ、私たちは地球環境にどのように関わればよいか調べる流れになっている。水との関わりが大きく取り上げられている。 「理科のたまご」では、環境やエネルギーに関する内容が取り上げられている。 「資源と人」「環境」のマークが設定され、環境に関する読み物がある。
学図	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいは、「～でしょうか」という問いかけや、「これから、～について調べていきましょう」という呼びかけで、文で提示されている。 小単元の見出しと写真で学習の流れが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用語は、本文より大きなサイズのゴシック体で、ルビが表記されている。また、基本的な用語が出たページに「ことば大事な言葉」コーナーがある。 4～6年生の単元末の「ふりかえってみよう」のコーナーの下欄に「大事な言葉」の一覧があり、用語の定着を図るための振り返りの工夫がされている。 単元末に学習内容を確認する問題が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> <観察、実験の数>3年生(31)4年生(38)5年生(23)6年生(32) 準備物の表記があり、各準備物にチェック欄がある。 手順は、番号と文章、図や写真で示されている。 安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が5段階で示されている。具体的な注意事項がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 空気・水・植物と人との関わり・汚した場合に及ぼす影響や、自然環境を守る取組について調べる流れになっている。 他単元で外来生物の扱いに触れられている。 「双葉」マークが設定され、観察で気をつけること、資源や環境に関する読み物が記述されている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいは、「～でしょうか」という問いかけや、「これから、～について調べていきましょう」という呼びかけで、文で提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用語は、ゴシック体で、ルビが表記されている。また、巻末に、「この1年間で学んだこと」のコーナーとして、単元ごとに要点がまとめられている。 単元末に、学習内容を確認する問題が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> <観察、実験の数>3年生(33)4年生(34)5年生(26)6年生(25) 準備物の表記がある。 手順は、番号と文章、図や写真で示されている。 安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物をたどることから、食物連鎖を学習し、空気・水との関わりに広げていくようになっている。 巻末に「かんきょうミニずかん」があり、環境保全に関する取組、小学生の取組が紹介されている。 他単元でも「資料」として環境保全や地球に優しい新技術を取り上げ、紹介している。 「地球となかよし」マークが設定され、環境に関する読み物や自然観察の際の配慮点が記述されている。
信教	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいは、「～を調べよう」という呼びかけや、「～を調べよう」という呼びかけで、文で提示されている。 「学習のめあて」のコーナーが設けられており、学習のねらいが簡潔に示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用語は、ゴシック体で、ルビとともに点線のアンダーラインで表記されている。また、単元末には、その単元で新しく学習した言葉が単語カードでまとめられている。 単元末に、学習内容を確認するまとめ方の例や問題が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> <観察、実験の数>3年生(29)4年生(32)5年生(19)6年生(25) 準備物の表記がある。 手順は、番号と文章、図や写真で示され、点線矢印でつながれ、視覚的に手順がよく分かる工夫がされている。 安全確保の扱いにおいて、実験上の注意は、マークと文字で示されている。 アルコールランプの操作の扱いについては、操作手順が3段階で示されている。具体的な注意事項がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然とともに生きるという視点から、自分たちが日々取り組めるような身近な内容が取り上げられている。 人と自然との関わりを示す写真がある。 他単元でも「広げよう」で自然を生かした環境保全について紹介されている。 「木」のマークが設定され、観察の際自然や生命を大切にしよう呼びかける記述がある。

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫**

	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	問題解決の能力を育成するための工夫	
方法	日常生活や社会との関連付けを図る内容の扱い及び具体例 興味・関心を高める問いかけの工夫及び単元の導入の工夫	学習の進め方の示し方、問題解決の過程、課題発見の工夫、問題解決の能力の育成の扱い	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 「理科ひろば」のコーナーでは、学習内容と職業や社会の取組を関連付けたコラムが紹介されている。 単元の導入では、学習内容につながる自然現象や実験・観察の写真が数枚提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方は、「理科の世界にとび出そう!」のコーナーが設けられ、3年生のみ本文の途中に、他学年は巻頭に示されている。 単元の問題解決の過程は、問題→予想しよう→活動→観察→実験→考えよう→まとめとして示されている。また、各過程が単元ごとに大きく太字で書かれているため、視覚的にも流れが分かりやすくなるよう工夫されている。 課題発見については、「思い出そう」と既習事項や生活経験を想起させたり、比較したりできる写真が示されている。 予想させる場面では、先生のイラストで理由や考えをもたせる発問がある。また、自分の予想を確かめるための実験方法を考えさせる呼びかけがある。 考察する場面では、予想したことと比べて考えるように示されている。まとめの後に「説明しよう」と学習したことを活用して考えさせるための記述がある。 	◎
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 「理科のたまたまばこ」「ジャンプ」のコーナーでは、学習内容と生活とのつながりについて、「理科と人」のコーナーでは、科学者・技術者の功績について紹介されている。「学んだことをいかそう」のコーナーでは、学習内容を生活につなげて考えた問いが設定されている。 単元の導入では、見開きで学習内容につながる自然の写真が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方は、「理科の学び方」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 単元の問題解決の過程は、記号「?」や「よそうしよう」「かんさつ」「考えよう」「わかったこと」とし、色を変えて示されている。 課題発見については、どの単元にも問いがある。生活を想起させたり、状況の違う2枚の写真が示されたりしている。 予想の場面では、子どもが理由を述べているイラストがある。 考察の場面では、子どものイラストが吹き出しで考えを述べている。「結果」からすぐに「分かったこと」につなげているものもある。 	○
学図	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事に生かすくらしに生かす」のコーナーでは、仕事や生活との関連が紹介されている。 単元末の「活用しよう」のコーナーでは、学習内容を生活につなげて考える場が設定されている。 単元の導入の前に扉のページがあり、学習内容につながる自然の写真が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方は、「科学の芽を育てよう」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 単元の問題解決の過程は、記号「?」や「話し合い」「実験」「結果」「考察」「まとめ」とし、学びの流れのマークで示され、ページの端に整理されている。 課題発見については、既習事項や生活経験を想起させたりしている。 予想の場面では、「話し合い」を設定しており、生活場面での経験や理由を確認させるようにしている。 考察の場面では、実験結果から考察、まとめがノートに書いてあるように示されたものもある。 	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> 「科学のまど」「資料」のコーナーでは、学習内容と生活の事象や人物との関わりが紹介されている。 単元末「学んだことを使おう」では、生活につながる問題が設定されている。 単元の導入には、学習内容につながる自然現象や実験の写真が提示され、「～が見られます」「～があります」等のコメントが付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方は、「学習の順序」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 単元の問題解決の過程は、「はてな?」「調べよう」「調べた結果」「分かった」とし、キャラクターのマークで流れが示されている。 課題発見については、3年生は生活科の学習内容や生活経験を想起させ、4年生からは前学年の内容が示されている。 予想の場面では、予想は子どもの吹き出しで示され、その根拠も紹介されている。実験方法を計画させるように「計画しよう」という見出しがある。 考察の場面では、自分の予想と同じかどうかを考えるように示されているものもある。 	○
信教	実物がなため確認できない。	実物がなため確認できない。	
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> 「ひろげよう」「理科の広場」のコーナーでは、学習内容と生活とのつながりが紹介されている。また、そこで働く人のコメントが載せられている。 単元の導入は見開きで、学習内容につながる自然現象や実験観察の大きな写真が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方は、「学習の進め方」のコーナーが設けられ、各学年の巻頭に示されている。 単元の問題解決の過程は、記号「?」や「話し合い」で予想、「実験」「結果」「考察」「話し合い」「まとめ」としている。 予想や実験方法を考えさせる表記が多く、予想の根拠が吹き出しで記述され、根拠を考えさせるよう工夫がされている。 課題発見については、問題を「?」マークで示し、問題を見いだす写真や既習事項を想起させる表示がある。 考察する場面では、結果を話し合う記述や、予想と比較して考察するための記述がされている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点3】
内容の構成・配列・分量**

	⑦	⑧	⑨	
視点	単元や資料等の配列の工夫	補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述	ものづくりの数と内容	
方法	判、ページ総数、単元の数、単元以外の数と具体的内容	補充的な学習や発展的な学習の内容と分量	ものづくりの数と内容	
東書	・AB判 ページ総数 3年生(156) 4年生(184) 5年生(168) 6年生(208) 単元数 3年生(14) 4年生(16) 5年生(10) 6年生(12) ・各学年に制作資料がついている。また、資料として巻末に記録の取り方や、実験道具の使い方が示されている。	・<補充的な学習の内容と分量>「理科のひろば」のコーナーで、学んだことを生かした補充的な学習内容が記述されている。 ・事例数 3年生(14) 4年生(20) 5年生(20) 6年生(28) ・<発展的な学習の内容と分量>「はってん」のマークで示し、「もっと調べてみたいときにチャレンジしましょう(全員が学習しなくてもよい内容です)」と説明がある。 ・事例数 3年生(2) 4年生(7) 5年生(5) 6年生(13)	・<ものづくりの数>3年生(12) 4年生(5) 5年生(11) 6年生(4) ・<内容例:3年生>・風やゴムのおもちゃ ・電気のおもちゃ ・じしゃくのおもちゃ ・昆虫の切り紙作り等	◎
	・AB判 ページ総数 3年生(140) 4年生(176) 5年生(168) 6年生(188) ・単元数 3年生(14) 4年生(16) 5年生(11) 6年生(12) ・3年生のみ最後にシールや動植物の観察シートがある。 ・単元末の「ふりかえろう」で学年ごとに学習した内容をまとめられるようにしてある。巻末には最後のページに次の学年で学習する内容が紹介されている。	・<補充的な学習の内容と分量>「しりょう りかのたまご」のコーナーで、学んだことを広げたり深めたりする内容が紹介されている。 ・事例数 3年生(20) 4年生(27) 5年生(34) 6年生(33) ・<発展的な学習の分量と内容>巻頭に「ジャンプ」「はってん」のマークで、「学習指導要領には示されていない内容ですべての児童が一律に学習する必要はない」と説明がある。 ・事例数 3年生(5) 4年生(14) 5年生(10) 6年生(28)	・<ものづくりの数>3年生(19) 4年生(4) 5年生(9) 6年生(5) ・<内容例:3年生>・ゴムや風で動くおもちゃ ・豆電球のおもちゃ ・じしゃく等	○
大日本	・AB判 ページ総数 3年生(156) 4年生(184) 5年生(168) 6年生(208) ・単元数 3年生(15) 4年生(15) 5年生(11) 6年生(10) ・各学年で栽培する植物カレンダーが目次の次に記載されている。 ・巻末に「考えよう調べよう」として「見つける」「伝える・聞く」「かんさつ」「記ろく」「調べる」「まとめ」「道具の使い方」が記載されている。	・<補充的な学習の内容と分量>「読み物」「しりょう」「やってみよう」のコーナーで関連する読み物やしりょう、さらに調べてみるものが紹介されている。 ・事例数 3年生(20) 4年生(23) 5年生(30) 6年生(37) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に発展を示す記号があり、「本学年の指導要領外の内容を扱ったもので、児童の興味・関心に応じて利用しよう」と説明がある。 ・事例数 3年生(2) 4年生(3) 5年生(7) 6年生(13)	・<ものづくりの数>3年生(15) 4年生(5) 5年生(3) 6年生(2) ・<内容例:3年生>・ゴムの力で動く車 ・風車・風の中で動く車 ・スイッチの工夫 ・じしゃく等	◎
	・AB判 ページ総数 3年生(180) 4年生(208) 5年生(196) 6年生(206) 単元数 3年生(14) 4年生(17) 5年生(14) 6年生(11) ・各学年で巻末に図鑑があり、それぞれの内容が記されている。	・<補充的な学習の内容と分量>「しりょう」「科学のまど」「チャレンジ」のコーナーで学習に役立つ資料や学んだことと関連する話が紹介されている。 ・事例数 3年生(31) 4年生(27) 5年生(41) 6年生(37) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に「はってん」のマークで、「もっと学習したいときに、ちょうせんしてみよう」と説明がある。 ・事例数 3年生(2) 4年生(10) 5年生(12) 6年生(14)	・<ものづくりの数>3年生(9) 4年生(6) 5年生(6) 6年生(2) ・<内容例:3年生>・ゴムや風で動くおもちゃ ・作って遊ぼう ・懐中電灯 ・電気迷路 ・パトカー ・魚釣りゲーム ・かえるレース ・回路つなぎゲーム等	○
学図	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。	
教出	・AB判 ページ総数 3年生(162) 4年生(186) 5年生(194) 6年生(210) 単元数 3年生(13) 4年生(16) 5年生(11) 6年生(10) ・学習前に経験や既習事項を振り返り、問題を見いだすようにさせたり、単元終末での振り返りを記録させたりする冊子「わくわく理科プラス」が付いている。	・<補充的な学習の内容と分量>「理科のひろば」で学習に役立つ資料、「広げよう」「やってみよう」では、興味をもたせる内容が紹介されている。 ・事例数 3年生(21) 4年生(42) 5年生(28) 6年生(45) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に「発展」のマークで、「よゆうがあったら、チャレンジしよう。(中学校の理科で学習する内容も含みます)」と説明がある。 ・事例数 3年生(5) 4年生(7) 5年生(10) 6年生(15)	・<ものづくりの数>3年生(18) 4年生(8) 5年生(10) 6年生(3) ・<内容例:3年生>・プロペラで動く車 ・おもちゃランドへようこそ等	◎
信教	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。	実物がないため確認できない。	
啓林館	・AB判 ページ総数 3年生(162) 4年生(186) 5年生(194) 6年生(210) 単元数 3年生(13) 4年生(16) 5年生(11) 6年生(10) ・学習前に経験や既習事項を振り返り、問題を見いだすようにさせたり、単元終末での振り返りを記録させたりする冊子「わくわく理科プラス」が付いている。	・<補充的な学習の内容と分量>「理科のひろば」で学習に役立つ資料、「広げよう」「やってみよう」では、興味をもたせる内容が紹介されている。 ・事例数 3年生(21) 4年生(42) 5年生(28) 6年生(45) ・<発展的な学習の内容と分量>巻頭に「発展」のマークで、「よゆうがあったら、チャレンジしよう。(中学校の理科で学習する内容も含みます)」と説明がある。 ・事例数 3年生(5) 4年生(7) 5年生(10) 6年生(15)	・<ものづくりの数>3年生(18) 4年生(8) 5年生(10) 6年生(3) ・<内容例:3年生>・プロペラで動く車 ・おもちゃランドへようこそ等	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実	
	⑩	⑪	⑫
視点	本文記述との適切な関連付けがなされた写真及び資料等の取り扱い方	観察、実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫	科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫
方法	巻頭・巻末等の資料の扱い、イラスト・写真・図表等の示し方の工夫	考察文の記述例及び考察文の要素	話し合いや説明の活動を促す工夫とその具体例
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・4～6年生の巻頭には、「理科の世界にとび出そう！」で学習の進め方が示されている。 ・巻末には、「理科の調べ方を身につけよう」を設け、ノートの書き方、話し合いの仕方、顕微鏡の使い方、理科室の使い方、様々な実験器具の使い方、施設の利用、算数の学習を活用しようなどが紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた視覚的に分かりやすい大きな写真やイラストが多く掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察文は「1」まどめ」という項目で大きく特徴的に示している。(文体は敬体) ・<記述例>風が強いほうが、物を動かすはたらきは、大きくなります。(3年生) ※結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の後の考察の場面で「考えよう」という項目が全ての内容に設定されている。 ・実験をもとにした考察は記述しておらず、児童に話し合いや説明の活動をしながら考察させる形になっている。 ・単元によっては、「問題をつかもう」「予想しよう」という項目が設定されている。 ・発展学習として「説明しよう」「たしかめよう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> 右の写真のように、ピンポン球がへこんでしまったとき、もとの形にもどすには、どうすればよいか説明しましょう。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭には、「理科の学び方」が示され、6年生には「私たちの生活と環境」の欄が設けられている。 ・巻末には「ふりかえろう」を設け、学習したことの簡単な確認ができる。また、次の学年の学習内容が紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた児童のレポートや実験結果の記述例が多く記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察文は、「わかったこと」という項目で星マークを付けて示されている。(文体は3年生は敬体、4年生以上は常体) ・<記述例>風の強さによって、ものうごき方がかわります。強い風のほうが、大きくうごきます。(3年生) ※結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想の場面で「予想しよう」という項目が全ての場面に設定されている。 ・内容によっては、課題を見付ける場面で「話し合おう」、実験を計画する場面で「計画を立てよう」、考察の場面に「考えよう」という項目が設定されている。 ・発展学習として「学んだことを生かそう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> ペットボトルの中の空気の様子を説明しよう。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭には、自然現象をよんだ詩、「科学の芽を育てよう」「今までの学習を思い出してみよう」の欄が設けられている。 ・巻末には「考えよう調べよう」で、「見つける」「伝える・聞く」「記録する」「調べる」「まとめる」など、学習の進め方が紹介されている。実験器具の使い方もまとめて紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた視覚的に分かりやすい大きな写真が多く掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察文は、まず「〜か?」と問いつけの文で示されている。(文体は敬体) ・<記述例>風が強いほど風車は、はやく回ります。また、風が強いほど、じくを触ったときのごたえは強く、回っているときの音も大きくなります。(3年生) ※実験結果と関連付けて結論が示されている単元もある。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや説明の活動をする場として「話し合い」という項目が設定されている。 ・「話し合い」は、問題をもとに予想をしたり、実験方法を考えたりする場面や新たな問題を考える場面で内容に応じて設定されている。 ・発展学習として「ふりかえってみよう」「活用しよう」「活用学びを生かそう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> びんなどの金ぞくのふたがあかないとき、写真のようにふたの部分湯を湯であたためると、ふたがあけやすくなることある。ものの体積と温度に関係づけて説明してみましょう。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭には、自然科学の様々な分野の達人の「ミニメッセージ」と「学習の進め方」が設けられている。 ・巻末には、顕微鏡や双眼鏡の使い方、月や太陽の位置の調べ方、「この1年間で学んだこと」として簡単な確認ができ、さらに、「かんきょうミニずかん」「中学校で学ぶこと」が示されている。 ・本文との関連付けがなされた写真やイラストが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察文は、「わかった」という項目でキャラクターを付けて示されている。(文体は常体) ・<記述例>弱い風よりも強い風を当てたときのほうが、ほかけ車が動くきよりは長くなる。(3年生) ※結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を考える場面で「やってみよう」、予想する場面で「予想しよう」、実験を計画する場面で「計画しよう」、考察する場面で「結果から考えよう」という項目が、内容に応じて必要なものが設定されている。 ・発展学習として「学んだことを使おう」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> つぶれたピンポン球を湯につけると、元の形にもどります。これはなぜですか。「空気」という言葉を使って説明しましょう。
信教	実物がなければ確認できない。	実物がなければ確認できない。	実物がなければ確認できない。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭には、自然の写真が見開きで示されている。 ・巻末には、算数で学んだことが理科でも生かせる「理科につながる(算数のまど)」が設けられている。 ・「地域資料集」として、全国各地の地域の自然が紹介されている。 ・本文との関連付けがなされた写真やイラストが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察文は、3・4年生「結果からわかること」5・6年生「考察」という項目で示されている。(文体は、3年生は敬体、4年生以上は常体) ・<記述例>風が強いときは、風が弱いときとくらべて、車は速くまで走り出しました。このように、風にはものを動かす力があり、風の強さがかわると、ものを動かす力の強さもかわります。(3年生) ※実験結果と関連付けて結論が示されている。 ・考察文の要素は、観察、実験の結果を踏まえた内容で、比較・関係付け・条件制御・推論の要素が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや説明の活動をする場として「話し合い」という項目が設定されている。 ・「話し合い」は、問題を見付ける場面、問題をもとに予想したり、実験方法を考えたりする場面、観察・実験結果をもとに考察する場面で設定されている。 ・観察・実験の前後に設定している場合も多く、比較的設定数が多い。 ・発展学習として「力だめし」という項目が設定されている。 ・<説明させる活動の具体例> よく晴れた夏の日に海に行ったとき、砂浜に置いていたビーチボールを海水につけると、ボールがやわらかくなりました。そのわけを説明しましょう。

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「生活」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫	○飼育単元の学習活動の流れ，住みかや餌等飼育方法が示されている生き物	
	②自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりを深めるための工夫	○地域で生活したり，働いたりしている人々と児童が関わる絵や写真，四季の変化を対比させたページ	
	③自分自身や自分の生活について考えるための工夫	○学習活動の例，相互評価・他者評価の例	
	④生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫	○生活のきまりや安全についての例	
主体的に学習に取り組む工夫	⑤興味・関心を高めるための工夫	○上巻最初の単元の導入ページの内容	
	⑥振り返り表現するための工夫	○栽培單元におけるワークシートの例示	
内容の構成・配列・分量	⑦単元・題材や資料等の配列や分量	○単元名および総ページ数，上下巻の構成	
内容の表現・表記	⑧本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	○キャラクター，マークの工夫	
言語活動の充実	⑨コミュニケーション活動を通じた他者との情報交流の設定	○伝え合う活動の例示	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・校内の虫を探し、捕まえ、飼う活動から小動物（モルモット）を飼う活動や校外の生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、地域の方や幼児に調べたことを伝える活動が示されている。 ・ショウリョウバッタやザリガニなどの飼育方法が記載されている。</p> <p>② ・働く人や地域の人イラストや写真が多数掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を2回以上繰り返し学習できるよう工夫されている。</p> <p>③ ・吹き出しに思考を促す言葉やまとめ方の例（まきもの、すごろく、ランキング等）が示されている。 ・できるようになったことに対する教師からの評価を認定証の形で掲載したり、友達のすてきなところを「すごいねカード」や「ありがとうカード」で相互評価したりする例が示されている。 ・下学年や教師、同級生からの評価の例が、手紙、認定証、カードといった様々な形で示されている。</p> <p>④ ・「やくそく」コーナーに生活のきまりや安全（ちゅうい！）について示されている。 ・通学路での安全については、学習の中で実際に歩いた後、留意点について考えさせ、家の人ともう一度通学路を歩く等安全な通学路について、繰り返し学習する工夫がされている。 ・安全を見守ってくれている人や安全に関する標識等、ポイントになる部分が写真で示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ⑤ ・「すたあとぶっく」では、1ページに、2名の児童が交通安全推進隊に笑顔で挨拶をしている写真が示されている。 ・「すたあとぶっく」には、9ページにわたり、学校生活に関わる様々な場面が写真で示され、見通しをもち安心して学校生活に慣れることができるような工夫がされている。 ・左下には、保護者に向けてのガイダンスが特設されている。</p> <p>⑥ ・ワークシートを台紙に貼り、絵本形式にすることで振り返りができる工夫がある。 ・児童の実態に応じて、文字や絵等で表現したり、押し花や写真、実物を貼ったりする等、効果的なワークシートが例示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・上巻10、下巻9の単元で、季節や児童の発達段階に配慮した構成になっている。 ・下巻では、2つのまちたんけんの単元とは別に、公共物や公共施設などと直接かかわる活動や体験について「みんなでつかうまちのしせつ」という単元が設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑧ ・太陽をイメージしたキャラクター「たいちゃん」が使用されている。 ・巻末の「べんりてちょう」の参考ページを示す鉛筆とノートの絵のピンク色のマーク、「ぼけっとずかん」を参考にするよう示すテントウムシの絵の緑色のマークがある。どれも記載場所が、見開き右側のページ右上に統一されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑨ ・見付けたものの絵をたんけんマップに貼りながら友達に伝え合う活動や写真をパソコン機器等で紹介する活動、ポスターや新聞、パンフレット等、グループごとに手段を与え、地域に発信していく活動が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
大日本	<p>1 ① ・虫の居場所を考え探し、捕まえ、しばらく飼い、分かったことを友達に教える活動や身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、生き物のすごいところを友達に教え合う活動が示されている。 ・コオロギやザリガニなどの飼育方法が記載されている。</p> <p>② ・働く人や地域の人のイラストや写真が多数掲載されている。 ・四季の変化の対比について、春と冬のみ示されている。</p> <p>③ ・学習活動が1つ1つ丁寧に示してあり、自分の成長を確認できる工夫がある。 ・お礼の気持ちを書く場面が意図的に設定してあり、自分の成長は支えてくれる人のおかげであることを実感できる学習活動が示されている。 ・お互いのよいところやできるようになったことをカードに書き、グループ内で相互評価している例が示されている。</p> <p>④ ・「がくしゅうどうぐばこ」に、電車やバスに乗るときのきまりや自分を守るために気を付けること、道具の使い方について示されている。 ・通学路での安全については、通学路の安全を守ってくれている人や子ども110番のステッカー等について示されている。</p>
	<p>2 ⑤ ・「みんななかよし」では、見開き2ページに、笑顔で登校中の児童や地域の人々、学校の校長先生などの先生、高校生などイラストが示されている。</p> <p>⑥ ・「につき」形式で育てる植物を書き込む例が示されている。 ・1年生から野菜を栽培するという配列で、上巻から下巻へ続きの単元になっている。</p>
	<p>3 ⑦ ・上巻4、下巻5の単元で、季節に沿って構成されている。 ・各単元は、上巻では「なかよし」をキーワードに、下巻では「はっけん」をキーワードにまとめられている。 ・「栽培」が、2年間にわたって連続した単元として配列されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・ウサギ、パンダ、サルのキャラクターが使用されている。 ・子どもの横顔の絵でオレンジ色のマークの「せいかつことば」で、活動内容と関連して色の名前や雪の名前、雨の降り方を表す言葉などが紹介されている。</p>
	<p>5 ⑨ ・見付けたものの絵をたんけんマップに貼りながら友達に伝え合う活動やゆか地図に紹介カードを置き、探検コースを決める活動、クイズやポスター、紙芝居、地図で友達に伝え合う活動が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
学図	<p>1 ① ・小動物（モルモット）とのふれあい体験後，校内の生き物を探す活動や生き物を探す活動や生き物を探し，捕まえ，飼い，発見したことカードに書いたり，雌雄や他の生き物を比較しをまとめたりする活動が示されている。 ・モルモットやザリガニ，ダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。</p> <p>② ・働く人や地域の人のイラストや写真が掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を2回以上繰り返し学習できるよう工夫されている。</p> <p>③ ・「ものしりノート」のコーナーで，自分の物語を書くときの方法について例（絵本，巻き物，紙芝居）が示されている。 ・友達のよさを「キラリカード」に書き，交流する例が示されている。</p> <p>④ ・「ちゅうい」マークできまりや安全や手洗い・うがいについて示されている。 ・「あんぜんのページ」が設けてあり，学校の登下校での留意点が示されている。 ・巻末の「あんぜんのページ」では，防災や安全な道具の使い方が示されている。</p>
	<p>2 ⑤ ・「がっこうたんけん」では，見開き2ページに，学校の敷地内を登校する児童やたくさんの児童のいる教室，校庭の様子を描いたイラストが示されている。</p> <p>⑥ ・ワークシートの例が多く示されている。 ・ワークシートとキャラクターが連動しており，全てのワークシートの中に，キャラクター本人（観察している自分）が描かれており，自分の成長を意識させるような工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・上巻5，下巻5の単元で構成されている。 ・各単元は，上・下巻ともに，「探検・栽培・飼育・遊び・成長」のまとまりで構成されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・キャラクターではなく，男女4人の子どものイラストを使用し，子どもの視点でのつぶやきの言葉が示されている。 ・巻末の「学びかたずかん」や「ものしりノート」の参考ページを示している紫色のノートや参考ページを示した水色の鉛筆のマークがある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑨ ・見つけたものを絵カードで表し，クイズ等で伝え合う活動やグループごとに町新聞を作り，地域の人を招待する活動，活動のお礼を手紙で表す活動が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
教出	<p>1 ① ・小動物（モルモット）や虫等とのふれあい，育てる体験をした後，小動物の動きや感触等を表現する活動や校外の生き物を探し，飼い，育てる体験後，観察し，見つけたひみつを友達に発表する活動が示されている。 ・モルモットやシオカラトンボ，ダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。</p> <p>② ・働く人や地域の人の写真が多数掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を繰り返し学習できるよう工夫されている。</p> <p>③ ・導入に「おしゃべりタイム」が設定してあり，児童が話し合う中で，学習計画を立てる例が示されている。 ・友達ができるようになったことを「すごいねカード」で相互評価している例が示されている。</p> <p>④ ・「～のときは」コーナーに，学習のきまりが示されている。 ・「ぐんぐんポケット」には，道具の安全な使い方，乗り方について掲載されている。 ・町の安全を守ってくれている人や施設，防犯，防災について示されている。</p>
	<p>2 ⑤ ・「わくわくどきどき しょうがっこう」では，見開き2ページに，校庭でランドセルを背負った8名の1年生の児童の大きな写真と入学式当日の様子や教室の様子の5枚の小さい写真が示されている。</p> <p>⑥ ・ワークシートの下に，青字で教師のコメントがあり，アサガオの成長や児童の成長に気付かせるような工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・上巻8，下巻7の単元で構成されている。 ・各単元は，上・下巻ともに，動植物の飼育栽培・自然や物を使った遊びなど活動のまとまりで構成されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・「ぐんぐん」という動物のキャラクターが使用されている。 ・巻末の「ぐんぐんポケット」の参考ページを示すポケットに数字を書いたマークや他の教科と関連を示すマーク，最終のページの「せいかつかノート」にメモするよう示した鉛筆のマークなどがある。どれも，目次にマークの見方が説明されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑨ ・様々な人との関わりや学んだことをカードや写真，クイズ等様々な方法を使って，地域の人に分かりやすく発信するための伝え合う活動が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
信教	1 ① ・実物がないため、確認できない。 ② ・実物がないため、確認できない。 ③ ・実物がないため、確認できない。 ④ ・実物がないため、確認できない。
	2 ⑤ ・実物がないため、確認できない。 ⑥ ・実物がないため、確認できない。
	3 ⑦ ・実物がないため、確認できない。
	4 ⑧ ・実物がないため、確認できない。
	5 ⑨ ・実物がないため、確認できない。

発行者	総合的な所見
光村	<p>1 ① ・小動物（モルモット）とのふれあい、育てる体験をした後、分かったことや疑問、困ったこと等をまとめ、気付きを友達に伝え合う活動や身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、生き物のひみつをまとめ、友達に発表する活動が示されている。 ・モルモットやダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。</p> <p>② ・働く人や地域の人の写真が掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を繰り返し学習できるよう工夫されている。</p> <p>③ ・「ホップ ステップ ジャンプ」の3段階で学習活動が構成されており、児童の思考が深まっていく学習活動になっている。 ・友達や家族、先生から見て頑張っていることに対する評価を「ここがすごい」カードに記入し相互評価する例が示されている。</p> <p>④ ・きまりについては、右ページ下に、必要に応じて記載されている。 ・「！」マークで、安全や手洗いについて示されている。 ・交通安全については、町探検の単元のみで簡単に示されている。</p>
	<p>2 ⑤ ・「きょうから いちねんせい」では、見開き2ページに、好きなものを持ったり好きな遊びをしたりしてる児童のイラストが示されている。</p> <p>⑥ ・ワークシートの例が多く示されている。 ・本になるような綴じ方の例示があり、絵本形式にすることで振り返ることができるような工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・上巻7，下巻6の単元で構成されている。 ・各単元は、上・下巻ともに、動植物の飼育栽培・自然や物を使った遊びなど活動のまとまりで構成されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・キャラクターは特に使用されていない。 ・「どうすれば～できるかな。」と投げかけるコーナーがあり、4コマの枠に3つは手がかりがイラストと文で示されているが、残りの1つの枠を児童の思考を促す「？」マークで示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑨ ・体験したことを伝え合うための方法が少ない。</p>

発行者	総合的な所見
啓林館	<p>1 ① ・小動物（ウサギ）とのふれあい体験後、小動物の感触や様子等を友達に紹介する活動や生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、生き物のひみつを友達に知らせる活動が示されている。 ・別冊があり、調べやすい。 ・ウサギやバッタなどの飼育方法が記載されている。</p> <p>② ・働く人の写真やイラストは掲載されているが、地域の人々の写真やイラストが掲載されていない。 ・様々な場面の四季の変化を繰り返し学習できるよう工夫されている。</p> <p>③ ・「わくわく・いきいき・つたえあおう・チャレンジ」の4段階で学習活動が構成されており、児童の思考が深まっていく学習活動になっている。 ・友達ができるようになったことを「すごいところカード」で相互評価している例が示されている。</p> <p>④ ・きまりや安全について、「こんなときどうしよう」と具体場面が絵で示されている。 ・「あぶない」と危険な虫等は、写真で具体的に示されている。 ・通学路の安全について、2ページにわたり、下校中の児童の様子が示されている。 ・危険箇所や危険行為、正しい歩行等、様々な様子が示されており、比較しながら学習し、身に付ける工夫がされている。</p>
	<p>2 ⑤ ・「いちねんせいになつたよ」では、見開き2ページに、2名の男女の児童とその周りに学校生活や行事の4つの小さなイラストが示されている。</p> <p>⑥ ・最後に、本になるような綴じ方の例示があり、絵本形式にすることで振り返ることができるような工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・上巻10、下巻8の単元で、動植物の変化や季節に沿って構成されている。 ・校外活動の参考になる「せいかつたんけんブック」（49ページ）が別冊で示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑧ ・パンダ、サル、鳥の3つの動物のキャラクターが使用されている。 ・「こんなときどうしよう」のコーナーでは、イラストや文で場面を紹介し、自然や人との関わりや公共の場での行動の仕方など、児童が解決方法を考えたり話し合ったりすることが示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑨ ・様々な人との関わりや学んだことをクイズやカード等様々な方法を使って地域の人や幼児にも分かりやすく発信するための伝え合う活動が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
日文	1 ① ・上巻には、飼育単元がない。 ・下巻では、身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、観察し、不思議なことを発見カードに記入し、その後、小動物（モルモット）とのふれあい体験をし、生き物のことを幼児に教えてあげる活動が示されている。 ・ハムスターやザリガニ、ダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。 ② ・働く人や地域の人の写真が掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を2回以上繰り返し学習できるよう工夫されている。 ③ ・いろいろなまとめの例（カルタ、ペープサート、ポートフォリオ等）が示されている。 ・自分や友達のいいところを見つけてカードで相互評価する例や自分のすてきなところを発表し、家族からの評価を手紙の形で表している例が示されている。 ・友達や家族からの評価の例が、メッセージやカード、手紙といった形で示されている。 ④ ・「やくそく」コーナーに、生活のきまりについて示されている。 ・巻末「なんでもずかん」の「あんぜんきょうしつ」に防災のこと、「ようぐをつかってみよう」に安全な道具の使い方が掲載されている。 ・通学路の安全について、下校中の児童の様子が示されている。（危険箇所や危険行為、正しい歩行等）
	2 ⑤ ・「（さいしょのいっぽ）いちねんせいになったら」では、見開き2ページに、春の花に囲まれた中心にボールを持った男女2名の児童とその後ろから先生を先頭にランドセルを背負った男女5名の児童が歩いているイラストが示されている。 ・3ページの上部に、教師に向けてのコメントがあり、スタートカリキュラムの意図や教科横断的な教科書の使用法について示されている。 ・16ページにわたり、スタートカリキュラムの説明が示されている。 ⑥ ・「なりきりかあど」で、アサガオの気持ちになり、児童自身がアサガオからの手紙を書くことにより、世話をした自分の成長を振り返ることができるような工夫がある。 ・「こまったよカード」や「質問カード」など、台紙の色を変えたワークシートやその活用法なども例示する等の工夫がある。 ・ワークシートの例が多く示されている。 <div style="text-align: right;">【◎】</div>
	3 ⑦ ・上巻9、下巻6の単元で構成されている。 ・各単元は、上・下巻ともに、動植物の飼育・栽培、自然や物を使った遊びなど活動のまとまりで構成されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	4 ⑧ ・カワウソのような2匹の動物のキャラクターを使用しており、吹き出しで児童の活動や思考を促す言葉がけや活動する際の注意が示されている。 ・青いクレヨンのページ数に書いたマークで、巻末の「なんでもずかん」の関連ページが示されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	5 ⑨ ・体験したことを伝え合うための方法が少ない。

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	④
視点	具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫	自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めるための工夫	自分自身や自分の生活について考えるための工夫	生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫
方法	飼育単元の学習活動の流れ、住みかや餌等飼育方法が示されている生き物	地域で生活したり、働いたりしている人々と児童が関わる絵や写真、四季の変化を対比させたページ	学習活動の例、相互評価・他者評価の例	生活のきまりや安全についての例
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の虫を探し、捕まえ、飼う活動から小動物（モルモット）を飼う活動や校外の生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、地域の方や幼児に調べたことを伝える活動が示されている。 ・ショウリョウバッタやザリガニなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人や地域の人のイラストや写真が多数掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を2回以上繰り返し学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しに思考を促す言葉やまとめ方の例（まきもの、すごろく、ランキング等）が示されている。 ・できるようになったことに対する教師からの評価を認定証の形で掲載したり、友達の手紙や「すごいねカード」や「ありがとうカード」で相互評価したりする例が示されている。 ・下学年や教師、同級生からの評価の例が、手紙、認定証、カードといった様々な形で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やくそく」コーナーに生活のきまりや安全（ちゅうい）について示されている。 ・通学路での安全については、学習の中で実際に歩いた後、留意点について考えさせ、家の人ともう一度通学路を歩く安全な通学路について、繰り返し学習する工夫が示されている。 ・安全を見守ってくれている人や安全に関する標識等、ポイントになる部分が写真で示されている。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の居場所を考え探し、捕まえ、しばらく飼い、分かったことを友達に教える活動や身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、生き物のすごいところを友達に教え合う活動が示されている。 ・コオロギやザリガニなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人や地域の人のイラストや写真が多数掲載されている。 ・四季の変化の対比について、春と冬のみ示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動が1つ1つ丁寧に示しており、自分の成長を確認できる工夫がある。 ・おれの気持ちを書く場面が意図的に設定しており、自分の成長を支えてくれる人のおかげであることを実感できる学習活動が示されている。 ・お互いのよいところやできるようになったことをカードに書き、グループ内で相互評価している例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「がくしゅうどうぐばこ」に、電車やバスに乗るときにきまりや自分を守るために気を付けること、道具の使い方について示されている。 ・通学路での安全については、通学路の安全を守ってくれている人や子ども110番のステッカー等について示されている。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物（モルモット）とのふれあい体験後、校内の生き物を探し活動や生き物を探し活動や身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、発見したことカードに書いていたり、雌雄や他の生き物を比較しをまとめたりする活動が示されている。 ・モルモットやザリガニ、ダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人や地域の人のイラストや写真が掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を2回以上繰り返し学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものしりノート」のコーナーで、自分の物語を書くときの方法について例（絵本、巻き物、紙芝居）が示されている。 ・友達のよさを「キラリカード」に書き、交流する例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちゅうい」マークできまりや安全や手洗い・うがいのについて示されている。 ・「あんぜんのページ」が設けてあり、学校の登下校での留意点が示されている。 ・巻末の「あんぜんのページ」では、防災や安全な道具の使い方示されている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物（モルモット）や虫等とのふれあい、育てる体験をした後、小動物の動きや感触等を表現する活動や校外の生き物を探し、飼い、育てる体験後、観察し、見つけたひみつを友達に発表する活動が示されている。 ・モルモットやシオカラトンボ、ダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人や地域の人の写真が多数掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を繰り返し学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入に「おしゃべりタイム」が設定されており、児童が話し合う中で、学習計画を立てる例が示されている。 ・友達ができるようになったことを「すごいねカード」で相互評価している例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「～のときは」コーナーに、学習のきまりが示されている。 ・「ぐんぐんポケット」には、道具の安全な使い方、乗り方について掲載されている。 ・町の安全を守ってくれている人や施設、防犯、防災について示されている。
信教	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物（モルモット）とのふれあい、育てる体験をした後、分かったことや疑問、困ったこと等をまとめ、気持ちを友達に伝え合う活動や身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、生き物のひみつを友達に知らせる活動が示されている。 ・モルモットやダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人や地域の人の写真が掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を繰り返し学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポップ ステップ ジャンプ」の3段階で学習活動が構成されており、児童の思考が深まっていく学習活動になっている。 ・友達や家族、先生から見て頑張っていることに対する評価を「ここがすごい」カードに記入し相互評価する例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりについては、右ページ下に、必要に応じて記載されている。 ・「！」マークで、安全や手洗いについて示されている。 ・交通安全については、町探検の単元のみで簡単に示されている。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物（ウサギ）とのふれあい体験後、小動物の感触や様子等を友達に紹介する活動や生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、生き物のひみつを友達に知らせる活動が示されている。 ・別冊があり、調べやすい。 ・ウサギやバッタなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人の写真やイラストは掲載されているが、地域の人の写真やイラストが掲載されていない。 ・様々な場面の四季の変化を繰り返し学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく・いきいき・つたえあおう・チャレンジ」の4段階で学習活動が構成されており、児童の思考が深まっていく学習活動になっている。 ・友達ができるようになったことを「すごいところカード」で相互評価している例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや安全について、「こんなときどうしよう」と具体場面が絵で示されている。 ・「あぶない」と危険な虫等は、写真で具体的に示されている。 ・通学路の安全について、2ページにわたり、下校中の児童の様子が示されている。 ・危険箇所や危険行為、正しい歩行等、様々な様子が示されており、比較しながら学習し、身に付ける工夫が示されている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻には、飼育単元がない。 ・下巻では、身近にいる生き物を探し、捕まえ、飼い、育てる体験後、観察し、不思議なことを発見カードに記入し、その後、小動物（モルモット）とのふれあい体験をし、生き物のことを幼児に教えてあげる活動が示されている。 ・ハムスターやザリガニ、ダンゴムシなどの飼育方法が記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人や地域の人の写真が掲載されている。 ・様々な場面の四季の変化を2回以上繰り返し学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなまとめの例（カルタ、ペープサート、ポートフォリオ等）が示されている。 ・自分や友達のいいところを見つけてカードで相互評価する例や自分のすきなところを発表し、家族からの評価を手紙の形で表している例が示されている。 ・友達や家族からの評価の例が、メッセージカード、手紙といった形で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やくそく」コーナーに、生活のきまりについて示されている。 ・巻末「なんでもずかん」の「あんぜんきょうしつ」に防災のこと、「ようぐをつかってみよう」に安全な道具の使い方が掲載されている。 ・通学路の安全について、下校中の児童の様子が示されている。（危険箇所や危険行為、正しい歩行等）

◎：特に優れている、○：優れている

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	振り返り表現するための工夫	
方法	上巻最初の単元の導入ページの内容	栽培単元におけるワークシートの例示	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・「すたあとぶっく」では、1ページに、2名の児童が交通安全推進隊に笑顔で挨拶をしている写真が示されている。 ・「すたあとぶっく」には、9ページにわたり、学校生活に関わる様々な場面が写真で示され、見通しをもち安心して学校生活に慣れることができるような工夫がされている。 ・左下には、保護者に向けてのガイダンスが特設されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを台紙に貼り、絵本形式にすることで振り返りができる工夫がある。 ・児童の実態に応じて、文字や絵等で表現したり、押し花や写真、実物を貼ったりする等、効果的なワークシートが例示されている。 	◎
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんななかよし」では、見開き2ページに、笑顔で登校中の児童や地域の人々、学校の校長先生などの先生、高校生などイラストが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「につき」形式で育てる植物を書き込む例が示されている。 ・1年生から野菜を栽培するという配列で、上巻から下巻へ続きの単元になっている。 	
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・「がっこうたんけん」では、見開き2ページに、学校の敷地内を登校する児童やたくさんの児童のいる教室、校庭の様子を描いたイラストが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの例が多く示されている。 ・ワークシートとキャラクターが連動しており、全てのワークシートの中に、キャラクター本人（観察している自分）が描かれており、自分の成長を意識させるような工夫がある。 	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくどきどき しょうがっこう」では、見開き2ページに、校庭でランドセルを背負った8名の1年生の児童の大きな写真と入学式当日の様子や教室の様子の5枚の小さい写真が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの下に、青字で教師のコメントがあり、アサガオの成長や児童の成長に気付かせるような工夫がある。 	○
信教	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・「きょうから いちねんせい」では、見開き2ページに、好きなものを持ったり好きな遊びをしたりしている児童のイラストが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの例が多く示されている。 ・本になるような綴じ方の例示があり、絵本形式にすることで振り返ることができるような工夫がある。 	○
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・「いちねんせいになつたよ」では、見開き2ページに、2名の男女の児童とその周りに学校生活や行事の4つの小さなイラストが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に、本になるような綴じ方の例示があり、絵本形式にすることで振り返ることができるような工夫がある。 	○
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・「(さいしょのいっば) いちねんせいになつたら」では、見開き2ページに、春の花に囲まれた中心にボールを持った男女2名の児童とその後ろから先生を先頭にランドセルを背負った男女5名の児童が歩いているイラストが示されている。 ・3ページの上部に、教師に向けてのコメントがあり、スタートカリキュラムの意図や教科横断的な教科書の使用方法について示されている。 ・16ページにわたり、スタートカリキュラムの説明が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりきりかあど」で、アサガオの気持ちになり、児童自身がアサガオからの手紙を書くことにより、世話をした自分の成長を振り返ることができるような工夫がある。 ・「こまつたよカード」や「質問カード」など、台紙の色を変えたワークシートやその活用法なども例示する等の工夫がある。 ・ワークシートの例が多く示されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点3】 内容の構成・配列・分量		【観点4】 内容の表現・表記	【観点5】 言語活動の充実
	⑦	⑧	⑨
視点	単元・題材や資料等の配列や分量	本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	コミュニケーション活動を通じた他者との情報交流の設定
方法	単元名および総ページ数、上下巻の構成	キャラクター、マークの工夫	伝え合う活動の例示
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻10、下巻9の単元で、季節や児童の発達段階に配慮した構成になっている。 ・下巻では、2つのまちたんけんの単元とは別に、公共物や公共施設などと直接かかわる活動や体験について「みんなであつかうまちのしせつ」という単元が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽をイメージしたキャラクター「たいちゃん」が使用されている。 ・巻末の「べんりてちよう」の参考ページを示す鉛筆とノートの絵のピンク色のマーク、「ぼけつとずかん」を参考に示すよう示すテントウムシの絵の緑色のマークがある。どれも記載場所が、見開き右側のページ右上に統一されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見付けたものの絵をたんけんマップに貼りながら友達に伝え合う活動や写真をパソコン機器等で紹介する活動、ポスターや新聞、パンフレット等、グループごとに手段を与え、地域に発信していく活動が示されている。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻4、下巻5の単元で、季節に沿って構成されている。 ・各単元は、上巻では「なかよし」をキーワードに、下巻では「はっけん」をキーワードにまとめられている。 ・「栽培」が、2年間にわたって連続した単元として配列されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギ、パンダ、サル、キャラクターが使用されている。 ・子どもの横顔の絵でオレンジ色のマークの「せいかつことば」で、活動内容と関連して色の名前や雪の名前、雨の降り方を表す言葉などが紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見付けたものの絵をたんけんマップに貼りながら友達に伝え合う活動やゆか地図に紹介カードを置き、探検コースを決める活動、クイズやポスター、紙芝居、地図で友達に伝え合う活動が示されている。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻5、下巻5の単元で構成されている。 ・各単元は、上・下巻ともに、「探検・栽培・飼育・遊び・成長」のまとまりで構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターではなく、男女4人の子どものイラストを使用し、子どもの視点でのつぶやきの言葉が示されている。 ・巻末の「学びかたずかん」や「ものしりノート」の参考ページを示している紫色のノートや参考ページを示した水色の鉛筆のマークがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見付けたものを絵カードで表し、クイズ等で伝え合う活動やグループごとに町新聞を作り、地域の人を招待する活動、活動のお礼を手紙で表す活動が示されている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻8、下巻7の単元で構成されている。 ・各単元は、上・下巻ともに、動植物の飼育栽培・自然や物を使った遊びなど活動のまとまりで構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐん」という動物のキャラクターが使用されている。 ・巻末の「ぐんぐんポケット」の参考ページを示すポケットに数字を書いたマークや他の教科と関連を示すマーク、最終ページの「せいかつかノート」にメモするよう示した鉛筆のマークなどがある。どれも、目次にマークの見方が説明されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人との関わりや学んだことをカードや写真、クイズ等様々な方法を使って、地域の人に分かりやすく発信するための伝え合う活動が示されている。
信教	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物がないため、確認できない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻7、下巻6の単元で構成されている。 ・各単元は、上・下巻ともに、動植物の飼育栽培・自然や物を使った遊びなど活動のまとまりで構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターは特に使用されていない。 ・「どうすれば～できるかな。」と投げかけるコーナーがあり、4コマの枠に3つは手がかりがイラストと文で示されているが、残りの1つの枠を児童の思考を促す「？」マークで示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことを伝え合うための方法が少ない。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻10、下巻8の単元で、動植物の変化や季節に沿って構成されている。 ・校外活動の参考になる「せいかつたんけんブック」(49ページ)が別冊で示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンダ、サル、鳥の3つの動物のキャラクターが使用されている。 ・「こんなどきどうしよう」のコーナーでは、イラストや文で場面を紹介し、自然や人との関わりや公共の場での行動の仕方など、児童が解決方法を考えたり話し合ったりすることが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人との関わりや学んだことをクイズやカード等様々な方法を使って地域の人や幼児にも分かりやすく発信するための伝え合う活動が示されている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻9、下巻6の単元で構成されている。 ・各単元は、上・下巻ともに、動植物の飼育・栽培、自然や物を使った遊びなど活動のまとまりで構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カワウソのような2匹の動物のキャラクターを使用して、吹き出して児童の活動や思考を促す言葉がけや活動する際の注意が示されている。 ・青いクレヨンのページ数に書いたマークで、巻末の「なんでもずかん」の関連ページが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことを伝え合うための方法が少ない。

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「音楽」
----	-----	----	------

観点	視点	方法
基礎・基本の定着	①題材の目標の示し方	○目標の表記の仕方及び目標達成のための支援
	②歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫	○発声のポイント及び歌唱共通教材の扱い
	③器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫	○鍵盤ハーモニカやリコーダーの扱い
	④我が国の音楽に関する内容の扱い	○学年ごとの鑑賞曲、器楽表現として扱う和楽器
主体的に学習に取り組む工夫	⑤興味・関心を高めるための工夫	○多様な音楽活動のための資料及び巻頭と巻末の扱い
	⑥「音楽づくり」の学習の扱い	○「音楽づくり」に関する学習の構成
	⑦表現と鑑賞の関連	○表現と鑑賞の関連の扱い
内容の構成・配列・分量	⑧題材の配列及び教材の分量	○題材の配列の系統性と題材ごとの教材数
	⑨発展的な学習に関する内容の記述の工夫	○発展的な学習内容の表記及び記述とその具体例
内容の表現・表記	⑩本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	○キャラクターやマーク等の活用、楽譜の扱い
言語活動の充実	⑪鑑賞領域における言語活動の工夫	○鑑賞の視点の提示の仕方及びワークシートの工夫とその具体例

※観点ごとに、特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
教出	<p>1 ① ・題材名は、短い言葉でまとめて表示され、題材の目標は、「はくのながれにのって、リズムであそぼう。」のような呼びかける形で、【共通事項】に着目する言葉を入れて表記されている。</p> <p>・目標達成のための支援として、教材ごとに学習のねらいを紙面の左上に、色遣いを変えて大きく太字で表記されている。活動のポイントとして示されている教材もある。</p> <p>② ・3年生以上の学年に「歌声」のコーナーを設け、絵や写真、言葉で発声のポイントが発達段階に合わせて示されている。</p> <p>・歌唱共通教材の一部は、「にっぽんのうた みんなのうた」と称され、1、2年生は見開き2ページ、3年生以上は見開き3ページにわたる大きな写真による情景描写と共に縦書きの歌詞や歌についての説明が掲載されている。「まきばの朝」（4年）は斉唱、「おぼろ月夜」（6年）も斉唱、「ふるさと」（6年）は二部合唱の楽譜が掲載されている。</p> <p>③ ・鍵盤ハーモニカの扱いについて、立奏の写真も題材内で掲載し、ほぼ実物大の楽器の写真を多様に用い、音の名称と鍵盤の位置、高さ、指番号が連動できるように示されている。</p> <p>・リコーダーの扱いについて、構え方や姿勢、息の入れ方を写真や絵、言葉で説明し、タンギングについて言葉とテープ図を区切った形で掲載されている。</p> <p>・3年生で学習する音の順番は、シ→ラ→ソ→ド()→レ()→ファ→ミ→レとされており、ド(ハ(・))は扱われていない。</p> <p>④ ・1、3年生は「わらべ歌」、2、4年生は「お囃子」、5年生は「民謡」、6年生は「箏曲」が扱われている。</p> <p>・3年生以上は、関連する諸外国の音楽とともに扱う構成となっている。</p> <p>・器楽表現は、2年生で和太鼓、5年生で篠笛、6年生で箏が扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ⑤ ・1～3年生には、透明シートのページが、4年生以上には中間部分に両開きの折り込みが掲載されている。</p> <p>・巻頭に、4年生以上は様々なジャンルの音楽家から「○○さんからみなさんへ」という音楽にまつわるメッセージが、本人の写真入りで掲載されている。</p> <p>・巻末には、全学年に「『音楽のもと』まとめ」として【共通事項】のまとめが掲載されている。又、全学年見開き4ページに渡る「楽器図鑑」等の資料が掲載されている。</p> <p>⑥ ・低学年は、音遊びや身近な楽器を使つての旋律づくりを扱う題材が多く設定されており、全学年を通して、「音のスケッチ」という音楽づくりを扱う題材が、選択して実施できるオプション部分に位置付いている。</p> <p>⑦ ・基礎となる学習とされている題材群1は、鑑賞と歌唱のみ、というように関連させる領域を焦点化して題材構成をしている。</p> <p>・学習の広がりとされる題材群2では、鑑賞と歌唱、器楽、音楽づくりを関連させて様々な音楽のよさや特徴を感じ取らせ、活動の幅が広がるよう題材構成がされている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑧ ・領域を2～3つに焦点化した題材構成が特徴的である。学年の前半部に基礎となる学習とされる題材群1が、後半部にそれらを活用して学習する題材群2が設定されている。鑑賞や音楽づくりのみを扱う題材やオプション的な題材もある。</p> <p>・題材ごとの教材数は、多くは3～5曲。</p> <p>⑨ ・全学年において、主に「もっとあそぼう」という表記で、リズムや強弱、響き等を変化させて発展的な学習ができるようになっている。</p> <p>・4年生以上には「はってん」という表記で、「小学校の『音楽』で学習する内容ではありませんが、覚えたり使ったりしてみよう」という投げかけで、全休符が繰り返し扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑩ ・全学年共通でキャラクターやマーク等が目次に掲載されている（4～6年生では、「はってん」のマークが加わる）。</p> <p>・楽譜については、1年生の器楽演奏のための楽譜が2段の帯線、2年生器楽演奏では、青色の五線、鑑賞曲には絵譜、さらに6年生鑑賞曲では、スコアも掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・紙面左上に聴き方の視点が示されており、キーワードは文字の大きさや色が変わっている。</p> <p>・吹き出しやてんとう虫マークの活動のポイントで、具体的な聴き方も提示されている。</p> <p>・ワークシートは、3年生以上に1題材ずつ示され、名部分を比較したり構成を意識したりできるものになっており、全ワークシートの下に書いたことをもとに自分の言葉で友達に伝えるよう促す言葉が掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
教芸	<p>1 ① ・題材名が、活動を意識できるような表現となっており、題材の目標は、題材ごとに、「・・・が・・・できるかな」と問いかける形で表記されている。</p> <p>・目標達成のための支援として、教材ごとに学習の目標が、紙面の左上に「5つの音で、おはやしのせんりつをつくりましょう。」のように、何をどうすればよいか表記されている。色は基本黒色で統一されている。教材ごとの活動例は【共通事項】に着目させながら示されている。</p> <p>② ・「うたごえ」のコーナーを全学年に設けられており、写真や絵、言葉でポイントが系統的に示されている。</p> <p>・歌唱共通教材は、「こころのうた」と称され、様子を表す絵や写真、楽譜と縦書きの歌詞をまとめ、掲載されている。「まきばの朝」（4年）は部分二部合唱、「おぼろ月夜」（6年）は二部合唱、「ふるさと」（6年）は三部合唱の楽譜が掲載されている。</p> <p>③ ・鍵盤ハーモニカの扱いについて、立奏の写真は巻末に掲載し、写真や絵で指番号が示されている。伸ばす音・短く切る音のイメージが丸棒状の図で示されている。</p> <p>・リコーダーの扱いについて、構え方や姿勢、穴の閉じ方を、指のはら等のアップ写真も交えながら示し、タンギングについてテープ図に線を入れる形で掲載されている。</p> <p>・3年生で学習する音の順番は、シ→ラ→ソ→ド()→レ()→ファ→ミ→レ→ドとされており、音階の順次進行の中でド(ハ(・))まで学ぶことができる。</p> <p>④ ・1, 2年生は「わらべ歌」、3年生は「お囃子」、4年生は「民謡」、5年生は「箏曲」、6年生は「雅楽」と系統的に扱われている。</p> <p>・4年生以上は、諸外国の音楽と関連付けて扱ったり、日本の音階を使った音楽づくりと関連付けて扱ったりする構成になっている。</p> <p>・器楽表現は、3年生で和太鼓、5年生で箏が扱われている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ⑤ ・3年生以上には、巻頭に「音楽プリズム」が掲載され、様々な音楽活動への意欲を喚起するような写真や説明が掲載されている。</p> <p>・巻末には、全学年に「ふり返りのページ」を設け、【共通事項】に関わる学習内容がまとめられている。3年生以上には、巻末に「音楽の歴史をつくった人」として写真や肖像画と共に紹介されている。又、3年生以上には、「鑑賞資料」が掲載されている。</p> <p>⑥ ・系統的な題材構成が生まれ、これに関連して、音楽づくりも段階的に位置付けられた構成になっている。旋律づくりでは、「ミソラの音を使って」（2年）、「ラドレの音で」（3年）、「ミソラドレの音で」（4年）、「ミファラソドミの音で」（5年）、「ハ長調の和音から音を選んで」（6年）のように細かいステップを踏んでいる。</p> <p>⑦ ・1つの題材中で、歌唱、器楽、音楽づくりと鑑賞領域を幅広く関連させた題材構成がされている。</p> <p>・器楽や歌唱の教材が複数曲扱われていたり、同一曲を器楽と歌唱の両面から扱うように設定されたりして鑑賞と関連させていく題材もある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑧ ・発達段階に応じて系統的に配列されており、4つの領域を全て扱った題材も多い。また、4年生の題材3「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」から、題材4「せんりつのもじりを感じ取ろう」のように、学年内でも題材ごとの学びのつながりを考慮した配列がされている。</p> <p>・題材ごとの教材数は、多くが4～5曲。</p> <p>⑨ ・1, 2年生は表記なし。3年生からは、「参考曲」という表記で、学習したことを生かして聴く曲が掲載されている。</p> <p>・3年生以上の巻末の音符や記号のまとめの表中に、「ステップアップ ここにしめされた★（ピンク）も、覚えておくと便利です。」と示され今後の学習も視野に入れた表記がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑩ ・全学年共通のマーク（鑑賞、音楽づくり、歌唱共通教材等）が掲載されている。全学年共通キャラクター“ダン”による吹き出して【共通事項】と関連させながら学習や工夫の視点が示されている。</p> <p>・楽譜については、1年生の器楽演奏のための楽譜が、1段の帯線から2段の帯線、鑑賞曲には絵譜や主要な旋律の冒頭部のみ抜粋して掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・紙面左上に「～しましょう。」と呼びかけの形で具体的な聴く視点が示されている。基本的に字の色は黒。聴きながら着目させたいこと等が呼びかけや問いかけの形で示されている。</p> <p>・ワークシートは、3, 4年生に掲載され、曲の感じとそれを生み出している特徴をまとめるものになっている。いずれも聴く時のポイントとして、【共通事項】が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	④	
視点	題材の目標の示し方	歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫	器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫	我が国の音楽に関する内容の扱い	
方法	目標の表記の仕方及び目標達成のための支援	発声のポイント及び歌唱共通教材の扱い	鍵盤ハーモニカやリコーダーの扱い	学年ごとの鑑賞曲、器楽表現として扱う和楽器	
教出	<p>・題材名は、短い言葉でまとめて表示され、題材の目標は、「はくのながれにのって、リズムであそぼう。」のような呼びかける形で、〔共通事項〕に着目する言葉を入れて表記されている。</p> <p>・目標達成のための支援として、教材ごとに学習のねらいを紙面の左上に、色遣いを変えて大きく太字で表記されている。活動のポイントとして示されている教材もある。</p>	<p>・3年生以上の学年に「歌声」のコーナーを設け、絵や写真、言葉で発声のポイントが発達段階に合わせて示されている。</p> <p>・歌唱共通教材の一部は、「にっぽんのうた みんなのうた」と称され、1、2年生は見開き2ページ、3年生以上は見開き3ページにわたる大きな写真による情景描写と共に縦書きの歌詞や歌についての説明が掲載されている。「まきばの朝」（4年）は斉唱、「おぼろ月夜」（6年）も斉唱、「ふるさと」（6年）は二部合唱の楽譜が掲載されている。</p>	<p>・鍵盤ハーモニカの扱いについて、立奏の写真も題材内で掲載し、ほぼ実物大の楽器の写真も多様に用い、音の名称と鍵盤の位置、高さ、指番号が連動できるように示されている。</p> <p>・リコーダーの扱いについて、構え方や姿勢、息の入れ方を写真や絵、言葉で説明し、タンギングについて言葉とテープ図を区切った形で掲載されている。</p> <p>・3年生で学習する音の順番は、シ→ラ→ソ→ド()→レ()→ファ→ミ→レとされており、ド(ハ(・))は扱われていない。</p>	<p>・1、3年生は「わらべ歌」、2、4年生は「お囃子」、5年生は「民謡」、6年生は「箏曲」が扱われている。</p> <p>・3年生以上は、関連する諸外国の音楽とともに扱う構成となっている。</p> <p>・器楽表現は、2年生で和太鼓、5年生で篠笛、6年生で箏が扱われている。</p>	○
教芸	<p>・題材名が、活動を意識できるような表現となっており、題材の目標は、題材ごとに、「・・・が・・・できるかな」と問いかける形で表記されている。</p> <p>・目標達成のための支援として、教材ごとに学習の目標が、紙面の左上に「5つの音で、おはやしのせんりつをつくりましょう。」のように、何をどうすればよいか表記されている。色は基本黒色で統一されている。教材ごとの活動例は〔共通事項〕に着目させながら示されている。</p>	<p>・「うたごえ」のコーナーを全学年に設けられており、写真や絵、言葉でポイントが系統的に示されている。</p> <p>・歌唱共通教材は、「こころのうた」と称され、様子を表す絵や写真、楽譜と縦書きの歌詞をまとめ、掲載されている。「まきばの朝」（4年）は部分二部合唱、「おぼろ月夜」（6年）は二部合唱、「ふるさと」（6年）は三部合唱の楽譜が掲載されている。</p>	<p>・鍵盤ハーモニカの扱いについて、立奏の写真は巻末に掲載し、写真や絵で指番号が示されている。伸ばす音・短く切る音のイメージが丸棒状の図で示されている。</p> <p>・リコーダーの扱いについて、構え方や姿勢、穴の閉じ方を、指のはら等のアップ写真も交えながら示し、タンギングについてテープ図に線を入れる形で掲載されている。</p> <p>・3年生で学習する音の順番は、シ→ラ→ソ→ド()→レ()→ファ→ミ→レ→ドとされており、音階の順次進行の中でド(ハ(・))まで学ぶことができる。</p>	<p>・1、2年生は「わらべ歌」、3年生は「お囃子」、4年生は「民謡」、5年生は「箏曲」、6年生は「雅楽」と系統的に扱われている。</p> <p>・4年生以上は、諸外国の音楽と関連付けて扱ったり、日本の音階を使った音楽づくりと関連付けて扱ったりする構成になっている。</p> <p>・器楽表現は、3年生で和太鼓、5年生で箏が扱われている。</p>	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	⑤	⑥	⑦	
視点	興味・関心を高めるための工夫	「音楽づくり」の学習の扱い	表現と鑑賞の関連	
方法	多様な音楽活動のための資料及び巻頭と巻末の扱い	「音楽づくり」に関する学習の構成	表現と鑑賞の関連の扱い	
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生には、透明シートのページが、4年生以上には中間部分に両開きの折り込みが掲載されている。 ・巻頭に、4年生以上は様々なジャンルの音楽家から「〇〇さんからみなさんへ」という音楽にまつわるメッセージが、本人の写真入りで掲載されている。 ・巻末には、全学年に「『音楽のもと』まとめ」として【共通事項】のまとめが掲載されている。又、全学年見開き4ページに渡る「楽器図鑑」等の資料が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、音遊びや身近な楽器を使っての旋律づくりを扱う題材が多く設定されており、全学年を通して、「音のスケッチ」という音楽づくりを扱う題材が、選択して実施できるオプション部分に位置付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎となる学習とされている題材群1は、鑑賞と歌唱のみ、というように関連させる領域を焦点化して題材構成をしている。 ・学習の広がりとなる題材群2では、鑑賞と歌唱、器楽、音楽づくりを関連させて様々な音楽のよさや特徴を感じ取らせ、活動の幅が広がるよう題材構成がされている。 	◎
教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上には、巻頭に「音楽リズム」が掲載され、様々な音楽活動への意欲を喚起するような写真や説明が掲載されている。 ・巻末には、全学年に「ふり返りのページ」を設け、【共通事項】に関わる学習内容がまとめられている。3年生以上には、巻末に「音楽の歴史をつくった人」として写真や肖像画と共に紹介されている。又、3年生以上には、「鑑賞資料」が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的な題材構成が生まれ、これに関連して、音楽づくりも段階的に位置付けられた構成になっている。旋律づくりでは、「ミソラの音を使って」（2年）、「ラドレの音で」（3年）、「ミソラドレの音で」（4年）、「ミファラシドミの音で」（5年）、「ハ長調の和音から音を選んで」（6年）のように細かいステップを踏んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの題材中で、歌唱、器楽、音楽づくりと鑑賞領域を幅広く関連させた題材構成がされている。 ・器楽や歌唱の教材が複数曲扱われていたり、同一曲を器楽と歌唱の両面から扱うように設定されたりして鑑賞と関連させていく題材もある。 	◎

◎:特に優れている、○:優れている

【観点3】
内容の構成・配列・分量

	⑧	⑨	
視点	題材の配列及び教材の分量	発展的な学習に関する内容の記述の工夫	
方法	題材の配列の系統性と題材ごとの教材数	発展的な学習内容の表記及び記述とその具体例	
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・領域を2～3つに焦点化した題材構成が特徴的である。学年の前半部に基礎となる学習とされる題材群1が、後半部にそれらを活用して学習する題材群2が設定されている。鑑賞や音楽づくりのみを扱う題材やオプション的な題材もある。 ・題材ごとの教材数は、多くは3～5曲。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、主に「もっとあそぼう」という表記で、リズムや強弱、響き等を変化させて発展的な学習ができるようになっている。 ・4年生以上には「はってん」という表記で、「小学校の『音楽』で学習する内容ではありませんが、覚えて使ったりしてみよう」という投げかけで、全体符が繰り返し扱われている。 	○
教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて系統的に配列されており、4つの領域を全て扱った題材も多い。また、4年生の題材3「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」から、題材4「せんりつのももを感じ取ろう」のように、学年内でも題材ごとの学びのつながりを考慮した配列がされている。 ・題材ごとの教材数は、多くが4～5曲。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生は表記なし。3年生からは、「参考曲」という表記で、学習したことを生かして聴く曲が掲載されている。 ・3年生以上の巻末の音符や記号のまとめの表中に、「ステップアップ ここにしめされた★(ピンク)も、覚えておくと便利です。」と示され今後の学習も視野に入れた表記がある。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実	
⑩		⑪	
視点	本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	鑑賞領域における言語活動の工夫	
方法	キャラクターやマーク等の活用、楽譜の扱い	鑑賞の視点の提示の仕方及びワークシートの工夫とその具体例	
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通でキャラクターやマーク等が目次に掲載されている（4～6年生では、「はってん」のマークが加わる）。 ・楽譜については、1年生の器楽演奏のための楽譜が2段の帯線、2年生器楽演奏では、青色の五線、鑑賞曲には絵譜、さらに6年生鑑賞曲では、スコアも掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面左上に聴き方の視点が示されており、キーワードは文字の大きさや色が変わっている。吹き出しやてんとう虫マークの活動のポイントで、具体的な聴き方も提示されている。 ・ワークシートは、3年生以上に1題材ずつ示され、各部分を比較したり構成を意識したりできるものになっており、全ワークシートの下に書いたことをもとに自分の言葉で友達に伝えるよう促す言葉が掲載されている。 	◎
教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通のマーク（鑑賞、音楽づくり、歌唱共通教材等）が掲載されている。全学年共通キャラクター“ダン”による吹き出して〔共通事項〕と関連させながら学習や工夫の視点が示されている。 ・楽譜については、1年生の器楽演奏のための楽譜が、1段の帯線から2段の帯線、鑑賞曲には絵譜や主要な旋律の冒頭部のみ抜粋して掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面左上に「～しましょう。」と呼びかけの形で具体的な聴く視点が示されている。基本的に字の色は黒。聴きながら着目させたいこと等が呼びかけや問いかけの形で示されている。 ・ワークシートは、3、4年生に掲載され、曲の感じとそれを生み出している特徴をまとめるものになっている。いずれも聴く時のポイントとして、〔共通事項〕が示されている。 	◎

◎:特に優れている、○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「図画工作」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①題材の目標の示し方	○題材の目標及び導入の文章の表記	
	②材料や用具の取扱い，説明の仕方	○材料や用具の取扱いについて，示し方や説明の仕方の特徴等の記載	
	③伝統と文化に関する内容の記述	○伝統と文化に関する鑑賞作品等の記載	
	④豊かな情操に関する内容の記述	○豊かな情操を養うための工夫	
主体的に学習に取り組む工夫	⑤興味・関心を高めるための工夫	○興味・関心を高めるマークや図の活用	
	⑥造形活動への意欲を高め，社会や文化とのかかわりを考えさせるための工夫	○身のまわりの造形に関心をもたせる資料等の扱い	
内容の構成・配列・分量	⑦題材や資料等の配列	○「造形遊び」「絵や立体，工作」「鑑賞」それぞれの題材数及び構成や配列	
	⑧掲載している作品	○サイズ，材料を明記している参考作品の数	
内容の表現・表記	⑨題材の記載と作品の解説の仕方	○作品等の配列及び技法や仕組み等，解説の仕方	
言語活動の充実	⑩鑑賞教材における言語活動の工夫	○鑑賞教材の適切さや提示の仕方の工夫	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
日文	1 ① ・題材名の上にどんな活動をする題材か、その内容が短い文章で示されている。 ・学習のめあてが4つの観点ごとに題材の横に示され、主に大切にする観点が下線で示されている。 ・ページ右下の「活動の後で」というコーナーに振り返りの視点が示されている。 ② ・「使ってみよう材料と用具」を巻末に6ページ設定し、学年に応じた材料用具の取扱いや技法が示されている。 ・絵の具、はさみ、電動のこぎり等の取扱いについて、写真やイラストを用いて説明されている。 ③ ・3・4年生から日本文化に係る題材が設定されている。 ・5・6年生下の鑑賞教材「味わってみよう和の形」では、扇、掛け軸、文様、根付等の和の形が多く示されている。 ④ ・作品を大きな図版で示し、美しいもの、優れたもの等に対する情操を養う工夫がなされている。 ・道徳性に係る多様な視点から情操を養う工夫がなされている。 ・豊かな情操を養うページには「鳥」のマークが示されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	2 ⑤ ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞は、各ページの題材名の左横にマークで示されている。 ・評価の4つの観点は、題材名の右横に示されている。 ・「形や色のチーロさん」マークを付けて児童の活動のヒントが示されている。 ⑥ ・土や砂、落ち葉や木の実等を利用した学習活動が取り上げられている。 ・形として表現することが難しい風、光、水も取り上げられている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	3 ⑦ ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列されている。 ⑧ ・児童作品は525作品、日本人作家作品は51作品、外国人作家作品は16作品が掲載されている。 ・児童の作品については、児童のコメントが掲載され、楽しかったことや工夫したことが分かるように示されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	4 ⑨ ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列されている。 ・技法や仕組みは地色を付けたコーナーで説明され、作者の思いは別の地色を付けることで、作品の解説と区別して示されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>
	5 ⑩ ・鑑賞の学習のめあてが簡潔に示されている。 ・児童が体を使って主体的に鑑賞できる題材（3・4年生上下）、描かれていることやものを読み取ったり、作品を見比べながら見方や感じ方を深めたりする題材（5・6年生上）等が設定され、学年に応じて言語活動が工夫されている。 ・児童の発言やつぶやきが紹介され、学習活動のイメージをもたせるように工夫されている。 <div style="text-align: right;">【○】</div>

発行者	総合的な所見
開隆堂	<p>1 ① ・題材名の上に、その題材で一番大切にしたい目標が帯で示され、見開き左ページ上の「めあて」と右ページ下の「振り返り」が対応している。 ・振り返りでは、4つの観点が示され、大切な点は太字で表記されている。</p> <p>② ・巻末4ページに用具・材料については「道具箱」に、表現技法については「パレットコーナー」にまとめて示されている。 ・「もう一度確かめよう」というコーナーで再度提示され、繰り返して技法を習得できる工夫がされている。 ・黄色の枠線で囲まれた「あんぜん気をつけて!」のコーナーに、安全な取扱いについて配慮すべき点が示されている。</p> <p>③ ・1・2年生から我が国の伝統的な工芸品や美術作品等の日本文化に係る題材が設定されている。 ・「みんなのギャラリー」のページで、江戸小紋や備前焼、鎌倉彫、加賀友禅等の伝統文化にふれ、その特徴を生かした製作例が示されている。</p> <p>④ ・造形作家の紹介及び作品が鑑賞できる見開きページ「ゆめをかたちに」が設定され、夢や志等、豊かな情操を養う工夫がなされている。 ・友達とかかわったり協力し合って製作したりする活動には「握手」マークが示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ⑤ ・目次には、造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞が漢字のマークで、題材の横には扱う材料・用具が示されている。 ・評価の4つの観点は、各ページ下に「カエル」マークとともに示されている。 ・題材名の上には、その題材で一番大切にしたい目標がマークとともに示されている。</p> <p>⑥ ・木の枝や葉、石、砂、風等を利用した学習活動が取り上げられている。 ・雪、山、湖等、普段あまり接することがない自然も取り上げられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列されている。 ・鑑賞以外の題材において、作品を鑑賞するコーナーや鑑賞する際の視点が示され、表現と鑑賞の二つの領域が一体的に学習できるように工夫されている。</p> <p>⑧ ・児童作品は522作品、日本人作家作品は44作品、外国人作家作品は12作品が掲載されている。 ・児童の作品については、児童のつぶやきを吹き出しにして、作品の製作手順や作り方等が分かるように示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑨ ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列され、道具や材料、技法や仕組みについては色枠で囲んで示されている。 ・作品のほとんどに解説が添えられ、作者の思いには括弧を付けて示されている。 ・立体、工作等の仕組みについて製作手順が示され、発想や構想及び表現方法のヒントとなるように工夫されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑩ ・「感じ方のちがいについて伝え合おう」(3・4年生上)、「場所や物の特徴をどのように生かしているのか、話し合ってみよう」(5・6年生上)等、言語活動の視点が具体的に示されている。 ・児童の発言やつぶやきが紹介され、学習活動のイメージをもたせるように工夫されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	④	
視点	題材の目標の示し方	材料や用具の取扱い、説明の仕方	伝統と文化に関する内容の記述	豊かな情操に関する内容の記述	
方法	題材の目標及び導入の文章の表記	材料や用具の取扱いについて、示し方や説明の仕方の特徴等の記載	伝統と文化に関する鑑賞作品等の記載	豊かな情操を養うための工夫	
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名の上にどんな活動をする題材か、その内容が短い文章で示されている。 ・学習のめあてが4つの観点ごとに題材の横に示され、主に大切にしている観点が下線で示されている。 ・ページ右下の「活動の後で」というコーナーに振り返りの視点が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「使ってみよう材料と用具」を巻末に6ページ設定し、学年に応じた材料用具の取扱いや技法が示されている。 ・絵の具、はさみ、電動のこぎり等の取扱いについて、写真やイラストを用いて説明されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年生から日本文化に係る題材が設定されている。 ・5・6年生下の鑑賞教材「味わってみよう和の形」では、扇、掛け軸、文様、根付等の和の形が多く示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を大きな図版で示し、美しいもの、優れたもの等に対する情操を養う工夫がなされている。 ・道徳性に係る多様な視点から情操を養う工夫がなされている。 ・豊かな情操を養うページには「鳥」のマークが示されている。 	○
	開 隆 堂	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名の上に、その題材で一番大切にしたい目標が帯で示され、見開き左ページ上の「めあて」と右ページ下の「振り返り」が対応している。 ・振り返りでは、4つの観点が示され、大切な点は太字で表記されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末4ページに用具・材料については「道具箱」に、表現技法については「パレットコーナー」にまとめて示されている。 ・「もう一度確かめよう」というコーナーで再度提示され、繰り返して技法を習得できる工夫がされている。 ・黄色の枠線で囲まれた「あんぜん気をつけて!」のコーナーに、安全な取扱いについて配慮すべき点が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生から我が国の伝統的な工芸品や美術作品等の日本文化に係る題材が設定されている。 ・「みんなのギャラリー」のページで、江戸小紋や備前焼、鎌倉彫、加賀友禅等の伝統文化にふれ、その特徴を生かした製作例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形作家の紹介及び作品が鑑賞できる見開きページ「ゆめをかたち」に設定され、夢や志等、豊かな情操を養う工夫がなされている。 ・友達とかかわったり協力し合って製作したりする活動には「握手」マークが示されている。

◎:特に優れている、○:優れている

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	⑤	⑥	
視点	興味・関心を高めるための工夫	造形活動への意欲を高め、社会や文化とのかかわりを考えさせるための工夫	
方法	興味・関心を高めるマークや図の活用	身のまわりの造形に関心をもたせる資料等の扱い	
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞は、各ページの題材名の左横にマークで示されている。 ・評価の4つの観点は、題材名の右横に示されている。 ・「形や色のチーロさん」マークを付けて児童の活動のヒントが示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土や砂、落ち葉や木の実等を利用した学習活動が取り上げられている。 ・形として表現することが難しい風、光、水も取り上げられている。 	○
開 隆 堂	<ul style="list-style-type: none"> ・目次には、造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞が漢字のマークで、題材の横には扱う材料・用具が示されている。 ・評価の4つの観点は、各ページ下に「カエル」マークとともに示されている。 ・題材名の上には、その題材で一番大切にしたい目標がマークとともに示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の枝や葉、石、砂、風等を利用した学習活動が取り上げられている。 ・雪、山、湖等、普段あまり接することがない自然も取り上げられている。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点3】
内容の構成・配列・分量**

	⑦	⑧	
視点	題材や資料等の配列	掲載している作品	
方法	「造形遊び」「絵や立体、工作」「鑑賞」それぞれの題材数及び構成や配列	サイズ、材料を明記している参考作品の数	
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童作品は525作品、日本人作家作品は51作品、外国人作家作品は16作品が掲載されている。 ・児童の作品については、児童のコメントが掲載され、楽しかったことや工夫したことが分かるように示されている。 	○
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列されている。 ・鑑賞以外の題材において、作品を鑑賞するコーナーや鑑賞する際の視点が示され、表現と鑑賞の二つの領域が一体的に学習できるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童作品は522作品、日本人作家作品は44作品、外国人作家作品は12作品が掲載されている。 ・児童の作品については、児童のつぶやきを吹き出しにして、作品の製作手順や作り方等が分かるように示されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実	
	⑨		⑩
視点	題材の記載と作品の解説の仕方	鑑賞教材における言語活動の工夫	
方法	作品等の配列及び技法や仕組み等、解説の仕方	鑑賞教材の適切さや提示の仕方の工夫	
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列されている。 ・技法や仕組みは地色を付けたコーナーで説明され、作者の思いは別の地色を付けることで、作品の解説と区別して示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の学習のめあてが簡潔に示されている。 ・児童が体を使って主体的に鑑賞できる題材（3・4年生上下）、描かれていることやものを読み取ったり、作品を見比べながら見方や感じ方を深めたりする題材（5・6年生上）等が設定され、学年に応じて言語活動が工夫されている。 ・児童の発言やつぶやきが紹介され、学習活動のイメージをもたせるように工夫されている。 	○
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞がまんべんなく配列され、道具や材料、技法や仕組みについては色枠で囲んで示されている。 ・作品のほとんどに解説が添えられ、作者の思いには括弧を付けて示されている。 ・立体、工作等の仕組みについて製作手順が示され、発想や構想及び表現方法のヒントとなるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「感じ方のちがいについて伝え合おう」（3・4年生上）、「場所や物の特徴をどのように生かしているのか、話し合ってみよう」（5・6年生上）等、言語活動の視点が具体的に示されている。 ・児童の発言やつぶやきが紹介され、学習活動のイメージをもたせるように工夫されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「家庭」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①題材の目標の示し方	○題材における目標の設定及び示し方	
	②伝統と文化に関する内容の記述	○伝統と文化に関する具体的な事例と数	
	③環境の保全に関する内容の記述	○環境の保全に関する具体的な事例と数	
	④基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫	○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための記述の工夫	
主体的に学習に取り組む工夫	⑤興味・関心を高めるための工夫	○各題材の導入の工夫及び興味・関心を高める吹き出し等の工夫	
	⑥課題を発見し解決できる能力を育成するための工夫	○自ら課題を見出し、解決を図る問題解決的な学習活動を充実させるための工夫	
	⑦実践的・体験的な学習を実施するための工夫	○家庭生活をよりよくしようとするための、実践的・体験的な学習展開例	
内容の構成・配列・分量	⑧題材の配列及び分量	○題材の配列とページ数、資料や作品例の数	
	⑨発展的な学習に関する内容の記述の工夫	○発展的な学習の具体的な事例数及び家庭生活での実践の意欲を喚起する記述の工夫	
内容の表現・表記	⑩本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	○学習内容と関連した図・イラスト・写真・資料等の活用の工夫 ○ページの配置や構成の工夫、字体、色遣い等による効果	
言語活動の充実	⑪言語活動の充実を図るための工夫	○生活にかかわる言葉を実感を伴って理解できる工夫の具体例 ○言葉や図表を用いて考えたり説明したり表現したりする学習活動の具体例	

※観点ごとに、特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・全ての題材において、問題解決的な学習を進めることができるように、「1 見つめよう」「2 計画しよう・活動しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3段階でめあてが示されている。 ・小題材ごとに「学習のめあて」（本時分）がページ上に表示されており、ページ下の「ふり返ろう」とも対応している。</p> <p>② ・日本の伝統的な文化に関する内容に着目しやすいように、「日本の伝統」マークが12カ所付けられている。 ・マーク以外で、5カ所に日本の伝統的な文化について特集されている。</p> <p>③ ・環境に関する内容には、「環境」マークが付けられ、環境に配慮した生活について考える場面が14カ所示されている。その中で、油のついた物の後始末については、4カ所に繰り返し書かれている。 ・巻頭の折り込みには、特集「持続可能な社会をめざして」が設けられている。</p> <p>④ ・調理や裁縫に必要な知識や技能のポイントが、各題材の中と巻末に「いつも確かめよう」として掲載されている。 ・実習のページには、技能の習得について自己評価できるチェック欄がある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ⑤ ・題材の初めには、写真やイラストが提示されている。写真は学習の様子だけでなく、調理前や調理後の野菜の写真など題材によって様々である。 ・キャラクターの吹き出しを使って、学習課題やヒント、留意点等が示されている。 ・他の教科の学習との関連について「関連」マークで示されている。 ・中学校の技術・家庭科との関連が5カ所あり、中学校の学習へのつながりを意識させることができる。</p> <p>⑥ ・全ての題材が、「1 見つめよう」「2 計画しよう・活動しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」と問題解決の流れに沿った3つのステップで展開されている。 ・考えたり調べたり実習したり話し合ったりする活動につなげるために、「DO!活動」（学校）が示されている。</p> <p>⑦ ・全ての題材を通して、31の学習展開例が示されている。その内、文章のみで展開を示している例もある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑧ ・内容を14の題材に分けている。 ・整理整頓と掃除を同じ題材で5年生のみで学習したり、快適な住まい方を6年生のみでの1年間で学習したりするように配列されている。</p> <p>⑨ ・発展的な学習について、発展マークは付いてはいないが、事例が「資料」として3カ所に掲載されている。 ・家庭生活での実践につなげるために、「自由研究」が掲載され、各題材の流れと同じ3段階になっている。主に文章で記述されており、学んだことをもとに調べ学習ができるようになっている。 ・全ての題材の終わりに、「DO!活動」（家庭）のマークを提示している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑩ ・調理実習の過程については、絵で簡潔に示されている。 ・「いろいろなぬい方」では、縫い上がった糸の状態が示されている。 ・使用されている写真や絵には、具体的な言葉が補足されている。 ・食べ物の写真は、真上から撮影されたものが多い。 ・実習の流れが見開き2ページ一段で完結するようにしており、その中に活動に対する振り返りができるように配置されている。 ・家庭科の4つの内容別の見出しは示されていない。 ・写真は淡い色調、イラストは濃い色調が使われている。</p>
	<p>5 ⑪ ・「ゆでる」学習では、「沸騰」した湯の状態がイラストで描かれている。 ・「オリジナルサラダ」や「クリーン大作戦」の実践を、絵や写真、言葉などでまとめる「トライカード」が示されている。「製作計画・実習カード」では、自分のこだわりや感想、次に生かせることを表現する欄がある。 ・買い物の仕方の学習では、パンフレットづくりで学習をまとめる活動がある。 ・全体的には、言葉や数、表を用いて考える学習活動が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
開隆堂	<p>1 ① ・題材の目標は、各題材の初めのページに、題材名の横を定位置として配置されている。 ・「学習のめあて」には、小单元ごとに児童が何をどうすればよいのかがまとめて示されている。 ・各題材の終わりには、「学習のめあて」に対応した「ふり返ろう」があり、自分でふり返り、チェックできるコーナーが設定されている。</p> <p>② ・伝統的な文化に関するマークはないが、日本の伝統的な食事（和食）を中心とした地域の文化や地域の食材が取り上げられている。 ・20カ所に日本の伝統的な文化が特集されているが、食に関するものに偏っている。</p> <p>③ ・環境に関する内容には、「環境」マークが付けられ、環境に配慮した生活について考える場面が20カ所示されている。その中で、油のついた物の後始末については、2カ所に書かれている。 ・身近にある環境についてのマークや分別収集のためのマークが3カ所で繰り返し紹介されている。</p> <p>④ ・調理に必要な知識及び裁縫で必要なポイントが、巻末に「資料」としてまとめて掲載されている。 ・実習のページには、技能の習得について自己評価できるチェック欄がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ⑤ ・題材の初めには、笑顔で学習したり家族で過ごしたりする児童の写真が提示されている。 ・キャラクターの吹き出しを使って、学習のヒントや留意点等が示されている。 ・他の教科の学習との関連について「関連」マークで示されている。 ・学年や教科についての関連は小学校のみで示されており、中学校への関連は示されていない。</p> <p>⑥ ・課題を発見する手がかりとなる写真・図表・イラスト等が記載されている。 ・題材により順序は変わるが、「話し合おう」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」の見出しが配置され、問題解決的な学習が展開されている。</p> <p>⑦ ・全ての題材を通して、35の学習展開例があり、写真やイラスト、文章で展開が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑧ ・内容を17の題材に分けている。 ・5年生で整理整頓、6年生で清掃というように題材を分けたり、5年生で寒さへの対処、6年生で暑さへの対処というように段階的に配列したりして、2年間で繰り返し学習を行うことで知識・技能の定着を図ることができる。</p> <p>⑨ ・発展的な学習について、発展マークが5カ所に付いており分かりやすい。 ・家庭生活での実践につなげるために、学期の終わりの「チャレンジコーナー」が提示され、学校で学んだことが長期休暇に生かせるようにしている。 ・活動の様子は写真で示されており、イメージしやすく取り組みやすい。 ・各題材の終わりには、「生かそう」の欄があり、家庭での実践につなげている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑩ ・製作や実習の過程については、写真で示されている。 ・「手ぬいのしかた」では、縫う過程の糸の動きが曲線で示され、針の進む方向が分かるように矢印が示されている。 ・「針と糸の使い方」では、写真では見えない位置にある糸が、補助的な線を使って描き加えられている。 ・食べ物の写真は、斜め上から撮影されたものが多く、料理の分量や盛りつけ方が分かりやすい。 ・実習の流れが見開き2ページで完結するものが多いが、1ページに2段になっているものもある。 ・家庭科の4つの内容別の見出しは、色分けで分類して示されている。 ・写真には、濃い色と薄い色、寒色と暖色というように色の違いがはっきりしている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・「ゆでる」学習では、「沸騰」した湯の状態が写真で示されている。 ・ページ下には、「ひとロメモ」で言葉の意味や写真についての説明が書かれており、理解を促す工夫がなされている。 ・実践したことを振り返り、さらにより良い方法を考えて言葉で表現する「わたしの仕事ふり返りカード」が示されている。 ・「共に生きる生活」の題材では、生活の仕方について、話し合ったり調べたりし、模造紙やパンフレット、新聞等にまとめて発表する活動が示されている。 ・全体的には、学習内容について話し合う活動が多く示されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	④	
視点	題材の目標の示し方	伝統と文化に関する内容の記述	環境の保全に関する内容の記述	基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫	
方法	題材における目標の設定及び示し方	伝統と文化に関する具体的な事例と数	環境の保全に関する具体的な事例と数	基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための記述の工夫	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 全ての題材において、問題解決的な学習を進めることができるように、「1 見つめよう」「2 計画しよう・活動しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3段階でめあてが示されている。 小題材ごとに「学習のめあて」（本時分）がページ上に表示されており、ページ下の「ふり返ろう」とも対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な文化に関する内容に着目しやすいように、「日本の伝統」マークが12カ所付けられている。 マーク以外で、5カ所に日本の伝統的な文化について特集されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内容には、「環境」マークが付けられ、環境に配慮した生活について考える場面が14カ所示されている。その中で、油のついた物の後始末については、4カ所に繰り返し書かれている。 巻頭の折り込みには、特集「持続可能な社会をめざして」が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理や裁縫に必要な知識や技能のポイントが、各題材の中と巻末に「いつも確かめよう」として掲載されている。 実習のページには、技能の習得について自己評価できるチェック欄がある。 	◎
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> 題材の目標は、各題材の初めのページに、題材名の横を定位置として配置されている。 「学習のめあて」には、小単元ごとに児童が何をどうすればよいのかをまとめて示されている。 各題材の終わりには、「学習のめあて」に対応した「ふり返ろう」があり、自分でふり返り、チェックできるコーナーが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な文化に関するマークはないが、日本の伝統的な食事（和食）を中心とした地域の文化や地域の食材が取り上げられている。 20カ所に日本の伝統的な文化が特集されているが、食に関するものに偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内容には、「環境」マークが付けられ、環境に配慮した生活について考える場面が20カ所示されている。その中で、油のついた物の後始末については、2カ所に書かれている。 身近にある環境についてのマークや分別収集のためのマークが3カ所で繰り返し紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理に必要な知識及び裁縫に必要なポイントが、巻末に「資料」としてまとめて掲載されている。 実習のページには、技能の習得について自己評価できるチェック欄がある。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫**

	⑤	⑥	⑦	
視点	興味・関心を高めるための工夫	課題を発見し解決できる能力を育成するための工夫	実践的・体験的な学習を実施するための工夫	
方法	各題材の導入の工夫及び興味・関心を高める吹き出し等の工夫	自ら課題を見出し、解決を図る問題解決的な学習活動を充実させるための工夫	家庭生活をよりよくしようとするための、実践的・体験的な学習展開例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の初めには、写真やイラストが提示されている。写真は学習の様子だけでなく、調理前や調理後の野菜の写真など題材によって様々である。 ・キャラクターの吹き出しを使って、学習課題やヒント、留意点等が示されている。 ・他の教科の学習との関連について「関連」マークで示されている。 ・中学校の技術・家庭科との関連が5ヵ所あり、中学校の学習へのつながりを意識させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての題材が、「1 見つけよう」「2 計画しよう・活動しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」と問題解決の流れに沿った3つのステップで展開されている。 ・考えたり調べたり実習したり話し合ったりする活動につなげるために、「DO!活動」(学校)が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての題材を通して、31の学習展開例が示されている。その内、文章のみで展開を示している例もある。 	◎
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の初めには、笑顔で学習したり家族で過ごしたりする児童の写真が提示されている。 ・キャラクターの吹き出しを使って、学習のヒントや留意点等が示されている。 ・他の教科の学習との関連について「関連」マークで示されている。 ・学年や教科についての関連は小学校のみで示されており、中学校への関連は示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見する手がかりとなる写真・図表・イラスト等が記載されている。 ・題材により順序は変わるが、「話し合おう」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」の見出しが配置され、問題解決的な学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての題材を通して、35の学習展開例があり、写真やイラスト、文章で展開が示されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点3】
内容の構成・配列・分量**

	⑧	⑨	
視点	題材の配列及び分量	発展的な学習に関する内容の記述の工夫	
方法	題材の配列とページ数、資料や作品例の数	発展的な学習の具体的な事例数及び家庭生活での実践の意欲を喚起する記述の工夫	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を14の題材に分けている。 ・整理整頓と掃除を同じ題材で5年生のみで学習したり、快適な住まい方を6年生のみでの1年間で学習したりするように配列されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習について、発展マークは付いてはいないが、事例が「資料」として3カ所に掲載されている。 ・家庭生活での実践につなげるために、「自由研究」が掲載され、各題材の流れと同じ3段階になっている。主に文章で記述されており、学んだことをもとに調べ学習ができるようになっている。 ・全ての題材の終わりに、「DO!活動」(家庭)のマークを提示している。 	○
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を17の題材に分けている。 ・5年生で整理整頓、6年生で清掃というように題材を分けたり、5年生で寒さへの対処、6年生で暑さへの対処というように段階的に配列したりして、2年間で繰り返し学習を行うことで知識・技能の定着を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習について、発展マークが5カ所に付いており分かりやすい。 ・家庭生活での実践につなげるために、学期の終わりの「チャレンジコーナー」が提示され、学校で学んだことが長期休暇に生かせるようにしている。 ・活動の様子は写真で示されており、イメージしやすく取り組みやすい。 ・各題材の終わりには、「生かそう」の欄があり、家庭での実践につなげている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実	
⑩		⑪	
視点	本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	言語活動の充実を図るための工夫	
方法	学習内容と関連した図・イラスト・写真・資料等の活用の工夫 ページの配置や構成の工夫、字体、色遣い等による効果	生活にかかわる言葉を実感を伴って理解できる工夫の具体例 言葉や図表を用いて考えたり説明したり表現したりする学習活動の具体例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習の過程については、絵で簡潔に示されている。 「いろいろなぬい方」では、縫い上がった糸の状態が示されている。 使用されている写真や絵には、具体的な言葉が補足されている。 食べ物の写真は、真上から撮影されたものが多い。 実習の流れが見開き2ページ一段で完結するようにしており、その中に活動に対する振り返りができるように配置されている。 家庭科の4つの内容別の見出しは示されていない。 写真は淡い色調、イラストは濃い色調が使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゆでる」学習では、「沸騰」した湯の状態がイラストで描かれている。 「オリジナルサラダ」や「クリーン大作戦」の実践を、絵や写真、言葉などでまとめる「トライカード」が示されている。「製作計画・実習カード」では、自分のこだわりや感想、次に生かせることを表現する欄がある。 買い物の仕方の学習では、パンフレットづくりで学習をまとめる活動がある。 全体的には、言葉や数、表を用いて考える学習活動が示されている。 	○
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> 製作や実習の過程については、写真で示されている。 「手ぬいのしかた」では、縫う過程の糸の動きが曲線で示され、針の進む方向が分かるように矢印が示されている。 「針と糸の使い方」では、写真では見えない位置にある糸が、補助的な線を使って描き加えられている。 食べ物の写真は、斜め上から撮影されたものが多く、料理の分量や盛りつけ方が分かりやすい。 実習の流れが見開き2ページで完結するものが多いが、1ページに2段になっているものもある。 家庭科の4つの内容別の見出しは、色分けで分類して示されている。 写真には、濃い色と薄い色、寒色と暖色というように色の違いがはっきりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゆでる」学習では、「沸騰」した湯の状態が写真で示されている。 ページ下には、「ひとロメモ」で言葉の意味や写真についての説明が書かれており、理解を促す工夫がなされている。 実践したことを振り返り、さらにより良い方法を考えて言葉で表現する「わたしの仕事ふり返りカード」が示されている。 「共に生きる生活」の題材では、生活の仕方について、話し合ったり調べたりし、模造紙やパンフレット、新聞等にまとめて発表する活動が示されている。 全体的には、学習内容について話し合う活動が多く示されている。 	◎

◎:特に優れている, ○:優れている

総合所見

校種	小学校	種目	「保健」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①単元の目標の示し方	○各單元における導入の方法及び学習課題の示し方	
	②健康・安全・体力に関する内容の記述	○食育・安全・体力向上に関する記述	
	③けがの手当ての実習に関する記述	○けがの手当てに関する実習事例	
主体的に学習に取り組む工夫	④興味・関心を高めるための工夫	○学習の動機付け，單元ごとの振り返りの活用状況	
	⑤実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題・題材の工夫	○「毎日の生活と健康」，「育ちゆく体とわたし」，「病気の予防」について，身近な生活を取り上げた記述例	
内容の構成・配列・分量	⑥單元・題材や資料等の配列・分量	○児童が理解しやすい單元や資料等の配列，分量	
	⑦発展的な学習に関する内容の記述	○発展的な学習の事例数と具体例	
内容の表現・表記	⑧本文記述と関連付けがなされたさし絵・写真・図表・キャラクター等の活用	○本文記述と関連付けたさし絵・写真・図表・キャラクター等の掲載内容	
言語活動の充実	⑨自分の考えをまとめて書いたり，話し合ったりする活動	○自分の考えをまとめたり，話し合いのために記入したりする活動の内容と数	

※観点ごとに，特に優れていると考えられるものに【◎】，優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・大単元の導入には、身近な内容の絵や写真等が使われ、単元全体を通した課題が提示され、児童が課題意識をもち、学習の見通しがもちやすい記述がなされている。 ・小単元の導入は、「話し合ってみよう」や「考えてみよう」等の学習活動が示されており、授業の流れに沿った身近な内容の絵や写真等が使われている。</p> <p>② ・食育に関しては、「生活習慣病の予防」のところに、かたよった食事について考える場面や栄養のかたよりが無い食事の大切さが記述されている。 ・安全に関しては、外遊びの注意事項に関しては詳しい記述があり、日ごろの生活にリンクしている。 ・体力向上については、運動や睡眠の内容が、具体的に例で挙げられており、すぐ実践しようとする意欲につながる記述がなされている。</p> <p>③ ・けがの手当に関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 ・けがをした時、状態を悪化させないための判断や処置の仕方が具体的に記述されている。 ・発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・学習の動機付けとして、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「活用して深めよう」等の学習活動が設定されている。 ・各章の最後には、学習のポイントについて振り返ったり、今後の自分の生活を考えたりすることができる「学習をふり返ろう」が設定されている。</p> <p>⑤ ・「けんこうな生活」では、イラストと関連付けながら自分の生活を振り返る活動が設定されている。 ・「育ちゆく体とわたし」では、課題解決的に理解できるように、ふだんの生活について話し合う活動が導入に設定されている。 ・「病気の予防」では、自分たちの地域ではどのような保健活動が行われているか話し合う内容が取り上げられ、実生活に関連付けて考えることができるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑥ ・単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して適切である。 ・巻頭では意欲を高め、巻末では次の学年につながるような資料が掲載されている。</p> <p>⑦ ・発展的な学習の事例数は、3年生4、4年生4、5年生6、6年生4であり、他者と比較して多い。また、全ての単元の終わりに学習したことを実生活に結び付けるために「広げよう」という記述がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」の単元では、話し合う材料として、様々な場所の禁煙区域の写真が掲載されており、児童に課題意識をもたせることができる等の工夫がされている。 ・「体の発育」の単元では、導入で「自分の体の成長に気付くための、乳児期の靴と手形の写真」が掲載され、今の自分と乳幼児期を簡単に比較でき、自分の体がどのくらい大きくなったのかを実感できるような工夫がされている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑨ ・「けんこうによいかんきょう」のまとめとして、4つの場面について正しくない理由を書かせるようになっている。 ・その後、2つの場面について、どのように環境を整えたら良いかを書かせ、まとめの話し合い活動ができるように設定されている。 ・単元全体を振り返り、学習した内容を定着させる部分と、学習した内容を活用させる部分の記述欄が設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
大日本	<p>1 ① ・大単元の導入には、見開き2ページに絵が示されており、絵を比較することを通して課題が提示されている。 ・小単元の導入には、「やってみよう」や「話し合ってみよう」でアンケート等が示されている。</p> <p>② ・食育に関しては、「生活習慣病の予防」のところに、栄養のかたよった食事について記述されている。 ・安全に関しては、「自然災害」「犯罪」「AED」等の記述がされており、話し合うことを通して、ねらいにせまる構成になっている。 ・体力向上については、継続して運動することの効果が具体的に記述されている。</p> <p>③ ・けがの手当に関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 ・けがをした時の対処の仕方が記述されている。 ・発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・学習の動機付けとして、主人公の2人を探したり、シールを使って作業したりする活動が設定されている。 ・学習の振り返りとして、小單元ごとに学習したことを活かして記述する「活用」のコーナーが設定されている。</p> <p>⑤ ・「毎日の生活と健康」では、毎日の生活を振り返り、自分の健康が様々な事柄と結びついていることを理解できるようにしている。 ・「育ちゆく体とわたし」では、身長伸びの変化をグラフ化する活動や食生活調べで意欲付けのためにシールが教科書に添付されている。 ・「病気の予防」では、ロールプレイをしながら他者とのかかわりについて考えさせる構成になっている。</p>
	<p>3 ⑥ ・単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して適切である。 ・巻末には、「命」についての資料が掲載されている。</p> <p>⑦ ・発展的な学習の事例数は、3年生0、4年生2、5年生3、6年生2であり、他者と比較して少ない。また、発展的な学習と他の資料との区別がつきにくい。</p>
	<p>4 ⑧ ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が、適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」に関する記述に、導入でたばこの煙によって、どのような体の変化が起こるか話し合ってみよう等、具体的な学習活動が示されている。 ・「体の発育」の単元では、導入で「入学時からの身長の伸びを調べるための、作業用のグラフ」等のシールを切りとり、グラフにはってみる活動があり、身長の伸びの変化を実感できる工夫がされている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑨ ・「気もちのよい生活かんきょう」の導入において、問題点のある1枚の場面絵から、生活環境の改善について書かせることで、本時の課題に沿うように方向付けしている。 ・学習した内容から自分の生活において実践できる事例を書かせ、まとめの話し合い活動ができるようにしている。 ・授業の導入段階と学習した内容を活用させる段階で記述するためのスペースが設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
文教社	<p>1 ① ・大単元の導入には、自己チェック、日常生活における危険予測、マッピング等が取り入れられているが、学習活動がやや多い。 ・単元名の下に、課題が2文程度で提示されている。 ・小単元の導入には、「調べてみよう」や「考えてみよう」等の学習活動が示されている。</p> <p>② ・食育に関しては、「生活習慣病の予防」のところに、生活習慣病と食生活の関係について考える場面がある。 ・安全に関しては、「犯罪被害」「防災」等が記述されているが、大きく取り上げられているのは、「水の事故」だけである。 ・体力向上については、「けんこうな生活とわたし」のところで、自分の生活を振り返らせている。</p> <p>③ ・けがの手当に関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 ・けがをした時の判断の仕方が記述されている。 ・発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。</p>
	<p>2 ④ ・学習の動機付けとして、各章の導入に、イラストや資料が掲載されている。 ・単元の振り返りとして、学習したことをもとに、「これからの自分へ」という欄で、実生活で具体的にやってみようと思うことを数行で記述させるようになっている。</p> <p>⑤ ・「毎日の生活とけんこう」では、学習のまとめとして、単元の終わりに、「これからの自分へ」として、実践課題の記入が設けられている。 ・「育ちゆく体とわたし」では、予想される場面を設定し、学習したことを生かしながら自分で考え、実際の場面での行動を考えさせるようにしている。 ・「病気の予防」では、「やってみよう」で、マッピングを取り入れ、いろいろな状況で、どのような対処が必要かを考えさせる構成になっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑥ ・単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して適切である。 ・巻末には、次の学年につながるような資料が掲載されている。意欲付けのための自分へのコメント欄がある。</p> <p>⑦ ・発展的な学習の事例数は、3年生0、4年生4、5年生2、6年生5であり、他者と比較してやや少ない。内容は児童が興味をもって学習できるものになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑧ ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が、適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」の単元では、導入で「喫煙者の歯の写真」を基に考えさせたり、「肺の様子を表した写真」を比較させ、喫煙の怖さを実感させたりする等の工夫がされている。 ・「体の発育」の単元では、「入学時からの身長伸びを調べるための、作業用のグラフ」があり、色をぬり、身長伸びの変化を実感できる工夫がされている。 ・「成長の個人差を示す、4人の成長のイラスト」が、発育の仕方が人によって違い、その時期が早い人も遅い人もいることを児童に分かりやすく表している。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑨ ・「けんこうによい部屋」の導入においては、部屋の空気について3枚の場面絵にある問題点を記述させるようになっている。 ・健康に良い生活を送るために、自分の生活改善に目を向けさせ、やってみようと思うことを書かせ、まとめの話合い活動ができるように設定されている。</p>

発行者	総合的な所見
光文	<p>1 ① ・大単元の導入には、これから学習していく内容や課題が2文程度で書かれている。その後すぐに小単元のタイトルを配置する形となっており、学習者に話題は提示されているが、明確な課題は示されていない。</p> <p>② ・食育に関して、楽しく食事することについて記述されている。「生活のしかたと病気の予防」のところでは、生活習慣病の予防について病気との関係で記述されている。 ・安全に関しては、実際の場面を想定してシミュレーションする学習活動がある。 ・体力向上については、体を発育させるために運動の大切さや続けることの意義等が記述されている。</p> <p>③ ・けがの手当に関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。扱われているけがの種類が他者と比較して多い。 ・けがをした時の対処の仕方が記述されている。 ・発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。</p>
	<p>2 ④ ・学習の動機付けとして、自分の生活と関連付けるための「学んだことをあてはめよう」という欄が設定されている。 ・単元の振り返りとして、書き込み形式で学習したことを振り返る「学んだことをもとに見つけよう（つたえよう）」という箇所が設けられているが、全ての単元ではない。</p> <p>⑤ ・「けんこうな生活」では、自分の健康に目を向けさせるため、一日の生活時間表や、チェック欄、書き込み欄等の活動が設定されている。 ・「育ちゆく体とわたし」の「学んだことをもとに見つけよう」では、学んだことをもとに、今後の行動を考えさせるようにしている。 ・「病気の予防」では、熱中症やせきエチケット、MDMA、覚せい剤等の健康・安全にかかわる社会的な課題を取り上げ、身近な問題として捉えさせている。</p>
	<p>3 ⑥ ・単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して5年生と6年生の分量に差が見られる。 ・巻末には、資料の掲載がない。 ・3・4年生の巻頭には、健康についての自分の考えを記載するスペースがあり、意欲付けに活用できるようになっている。</p> <p>⑦ ・発展的な学習の事例数は、3年生0、4年生1、5年生5、6年生3であり、学年によって取り上げられている数に差がある。取り扱っている発展のスペースも小さく、大まかな記述となっている。</p>
	<p>4 ⑧ ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が掲載されているが、1ページに対する資料の掲載料が多い。 ・「喫煙の害」の単元では、導入で「喫煙による体への影響のイラスト」、「喫煙者と非喫煙者の肺や歯、歯茎の様子の写真」をもとに喫煙の怖さを実感させたりする等の工夫がされている。 ・「体の発育」の単元では、「身長伸びを示す図（0才、1才、3才、6才、9才）」、「成長の様子を示す写真とイラスト（1才、6才、10才、13才、20才）」をもとに、おとなになるまでの発育していく様子を見通しをもたせる工夫がされている。</p>
	<p>5 ⑨ ・「部屋の明るさと空気」の導入において、部屋の明るさと空気について、問題点が書かれている場面絵を見ながら話し合いをするように設定されている。 ・考えを記述する箇所はないが、話し合いを通して課題をつかませるようにしている。</p>

発行者	総合的な所見
学研	<p>1 ① ・大単元の初めには単元全体を通した課題が提示されており、児童が課題意識をもち、見通しがもちやすい記述がなされている。 ・大単元の導入には、これまで学習してきたことが「関連」として示されている。 ・小単元の導入には、「ふり返ってみよう」や「考えてみよう」等の学習活動が提示されている。</p> <p>② ・食育に関しては、バランスのよい食事について記述されている。 ・安全に関しては、本文の補足として、絵や写真が豊富に取り入れられている。 ・体力向上については、自分の生活を振り返り、より健康的な生活を送るための具体策を考えさせる構成になっている。</p> <p>③ ・けがの手当に関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 ・けがをした時の対処の仕方が記述されている。 ・発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・学習の動機付けとして、絵や写真、図や表等をもとに考えたり、話し合ったりする学習活動が設定されている。 ・単元ごとの振り返りとして、「学習のまとめ」が設定されており、チェック項目と書き込み形式で振り返りができる。 ・生活に活かす視点が設けられていて、実生活に結び付けやすい。</p> <p>⑤ ・「毎日の生活と健康」では、健康的な生活習慣を確立するため、一日の生活時間表や、チェック欄、書き込み欄等の活動が設定されている。 ・「育ちゆく体とわたし」では、章末に学習したことの確認や知識の実生活への活用へつなげている。 ・「病気の予防」では、探究的な学習につながるよう、「もっと知りたい・調べたい」として資料を掲載し、学習した内容をより詳しく記述されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑥ ・単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対してやや多い。 ・巻末には、次の学年につながるような資料が掲載されている。</p> <p>⑦ ・発展的な学習の事例数は、3年生2、4年生3、5年生6、6年生6であり、他者と比較して多い。また、本文中で学習した内容につながったものになっている。</p>
	<p>4 ⑧ ・本文記述に関連した写真、イラスト及びクラブ等が、適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」の単元では、児童が興味をもって学習する材料として、「喫煙と手の血液の流れ」や「がんの危険性」等が取り上げられている。 ・「体の発育」の単元では、導入で「成長の個人差を示す、4人の成長のイラストとグラフ」、「入学時からの身長伸びを調べるための作業用のグラフ」をもとに、身長が大きく伸びている時期はいつか具体的に考えさせる等の工夫がされている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑨ ・「身の回りのかんきょう」の導入において、実際に友達と部屋の明るさについて実験することで物の見え方の違いに気付かせ、児童が実感を伴って言語活動が行えるようになっている。また、部屋の明るさと空気についての改善方法を書かせ、まとめの話し合いに活用できるように効果的な工夫がされている。 ・学習した内容を活用して実生活における課題を解決するため、自分の考えを記述する欄が設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

**【観点1】
基礎・基本の定着**

	①	②	③	
視点	単元の目標の示し方	健康・安全・体力に関する内容の記述	けがの手当ての実習に関する記述	
方法	各単元における導入の方法及び学習課題の示し方	食育・安全・体力向上に関する記述	けがの手当てに関する実習事例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入には、身近な内容の絵や写真等が使われ、単元全体を通した課題が提示され、児童が課題意識をもち、学習の見通しがもちやすい記述がなされている。 小単元の導入は、「話し合ってみよう」や「考えてみよう」等の学習活動が示されており、授業の流れに沿った身近な内容の絵や写真等が使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関しては、「生活習慣病の予防」のところに、かたよった食事について考える場面や栄養のかたよりがない食事の大切さが記述されている。 安全に関しては、外遊びの注意事項に関しては詳しい記述があり、日ごろの生活にリンクしている。 体力向上については、運動や睡眠の内容が、具体的に例で挙げられており、すぐに実践しようとする意欲につながる記述がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> けがの手当てに関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 けがをした時、状態を悪化させないための判断や処置の仕方が具体的に記述されている。 発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。 	◎
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入には、見開き2ページに絵が示されており、絵を比較することを通して課題が提示されている。 小単元の導入には、「やってみよう」や「話し合ってみよう」でアンケート等が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関しては、「生活習慣病の予防」のところに、栄養のかたよった食事について記述されている。 安全に関しては、「自然災害」「犯罪」「AED」等の記述がされており、話し合うことを通して、ねらいにせまる構成になっている。 体力向上については、継続して運動することの効果が具体的に記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> けがの手当てに関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 けがをした時の対処の仕方が記述されている。 発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。 	○
文教社	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入には、自己チェック、日常生活における危険予測、マッピング等が取り入れられているが、学習活動がやや多い。 単元名の下に、課題が2文程度で提示されている。 小単元の導入には、「調べてみよう」や「考えてみよう」等の学習活動が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関しては、「生活習慣病の予防」のところに、生活習慣病と食生活の関係について考える場面がある。 安全に関しては、「犯罪被害」「防災」等が記述されているが、大きく取り上げられているのは、「水の事故」だけである。 体力向上については、「けんこうな生活とわたし」のところで、自分の生活を振り返らせている。 	<ul style="list-style-type: none"> けがの手当てに関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 けがをした時の判断の仕方が記述されている。 発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。 	
光文	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の導入には、これから学習していく内容や課題が2文程度で書かれている。その後すぐに小単元のタイトルを配置する形となっており、学習者に話題は提示されているが、明確な課題は示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関しては、楽しく食事することについて記述されている。「生活のしかたと病気の予防」のところでは、生活習慣病の予防について病気との関係で記述されている。 安全に関しては、実際の場面を想定してシミュレーションする学習活動がある。 体力向上については、体を発育させるために運動の大切さや続けることの意義等が記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> けがの手当てに関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。扱われているけがの種類が他者と比較して多い。 けがをした時の対処の仕方が記述されている。 発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。 	
学研	<ul style="list-style-type: none"> 大単元の初めには単元全体を通した課題が提示されており、児童が課題意識をもち、見通しがもちやすい記述がなされている。 大単元の導入には、これまで学習してきたことが「関連」として示されている。 小単元の導入には、「ふり返ってみよう」や「考えてみよう」等の学習活動が提示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関しては、バランスのよい食事について記述されている。 安全に関しては、本文の補足として、絵や写真が豊富に取り入れられている。 体力向上については、自分の生活を振り返り、より健康的な生活を送るための具体策を考えさせる構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> けがの手当てに関する実習事例がイラストと解説で掲載されている。 けがをした時の対処の仕方が記述されている。 発展の扱いで、熱中症の予防と手当についてイラストと解説で掲載されている。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点2】
主体的に学習に取り組む工夫

	④	⑤	
視点	興味・関心を高めるための工夫	実生活・実社会に関連付けられるような記述や話題・題材の工夫	
方法	学習の動機付け、単元ごとの振り返りの活用状況	「毎日の生活と健康」、「育ちゆく体とわたし」、「病気の予防」について、身近な生活を取り上げた記述例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けとして、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「活用して深めよう」等の学習活動が設定されている。 各章の最後には、学習のポイントについて振り返ったり、今後の自分の生活を考えたりすることができる「学習をふり返ろう」が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「けんこうな生活」では、イラストと関連付けながら自分の生活を振り返る活動が設定されている。 「育ちゆく体とわたし」では、課題解決的に理解できるように、ふだんの生活について話し合う活動が導入に設定されている。 「病気の予防」では、自分たちの地域ではどのような保健活動が行われているか話し合う内容が取り上げられ、実生活に関連付けて考えることができるようになっている。 	○
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けとして、主人公の2人を探したり、シールを使って作業したりする活動が設定されている。 学習の振り返りとして、小単元ごとに学習したことを活かして記述する「活用」のコーナーが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日の生活と健康」では、毎日の生活を振り返り、自分の健康が様々な事柄と結びついていることを理解できるようにしている。 「育ちゆく体とわたし」では、身長伸び方の変化をグラフ化する活動や食生活調べで意欲付けのためにシールが教科書に添付されている。 「病気の予防」では、ロールプレイをしながら他者とのかわりについて考えさせる構成になっている。 	
文教社	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けとして、各章の導入に、イラストや資料が掲載されている。 単元の振り返りとして、学習したことをもとに、「これからの自分へ」という欄で、実生活で具体的にやってみようと思うことを数行で記述させるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日の生活とけんこう」では、学習のまとめとして、単元の終わりに、「これからの自分へ」として、実践課題の記入が設けられている。 「育ちゆく体とわたし」では、予想される場面を設定し、学習したことを生かしながら自分で考え、実際の場面での行動を考えさせるようにしている。 「病気の予防」では、「やってみよう」で、マッピングを取り入れ、いろいろな状況で、どのような対処が必要かを考えさせる構成になっている。 	○
光文	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けとして、自分の生活と関連付けるための「学んだことをあてはめよう」という欄が設定されている。 単元の振り返りとして、書き込み形式で学習したことを振り返る「学んだことをもとに見つけよう（つたえよう）」という箇所が設けられているが、全ての単元ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「けんこうな生活」では、自分の健康に目を向けさせるため、一日の生活時間表や、チェック欄、書き込み欄等の活動が設定されている。 「育ちゆく体とわたし」の「学んだことをもとに見つけよう」では、学んだことをもとに、今後の行動を考えさせるようにしている。 「病気の予防」では、熱中症やせきエチケット、MDM A、覚せい剤等の健康・安全にかかわる社会的な課題を取り上げ、身近な問題として捉えさせている。 	
学研	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けとして、絵や写真、図や表等をもとに考えたり、話し合ったりする学習活動が設定されている。 単元ごとの振り返りとして、「学習のまとめ」が設定されており、チェック項目と書き込み形式で振り返りができる。 生活に活かす視点が設けられていて、実生活に結び付けやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日の生活と健康」では、健康的な生活習慣を確立するため、一日の生活時間表や、チェック欄、書き込み欄等の活動が設定されている。 「育ちゆく体とわたし」では、章末に学習したことの確認や知識の実生活への活用へつなげている。 「病気の予防」では、探究的な学習につながるよう、「もっと知りたい・調べたい」として資料を掲載し、学習した内容をより詳しく記述されている。 	○

◎:特に優れている, ○:優れている

【観点3】
内容の構成・配列・分量

	⑥	⑦	
視点	単元・題材や資料等の配列・分量	発展的な学習に関する内容の記述	
方法	児童が理解しやすい単元や資料等の配列、分量	発展的な学習の事例数と具体例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> 単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して適切である。 巻頭では意欲を高め、巻末では次の学年につながるような資料が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の事例数は、3年生4、4年生4、5年生6、6年生4であり、他者と比較して多い。また、全ての単元の終わりに学習したことを実生活に結び付けるために「広げよう」という記述がある。 	○
大日本	<ul style="list-style-type: none"> 単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して適切である。 巻末には、「命」についての資料が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の事例数は、3年生0、4年生2、5年生3、6年生2であり、他者と比較して少ない。また、発展的な学習と他の資料との区別がつきにくい。 	
文教社	<ul style="list-style-type: none"> 単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して適切である。 巻末には、次の学年につながるような資料が掲載されている。意欲付けのための自分へのコメント欄がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の事例数は、3年生0、4年生4、5年生2、6年生5であり、他者と比較してやや少ない。内容は児童が興味をもって学習できるものになっている。 	○
光文	<ul style="list-style-type: none"> 単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対して5年生と6年生の分量に差が見られる。 巻末には、資料の掲載がない。 3・4年生の巻頭には、健康についての自分の考えを記載するスペースがあり、意欲付けに活用できようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の事例数は、3年生0、4年生1、5年生5、6年生3であり、学年によって取り上げられている数に差がある。取り扱っている発展のスペースも小さく、大まかな記述となっている。 	
学研	<ul style="list-style-type: none"> 単元の分量は、学習指導要領に示された各学年の配当時間に対してやや多い。 巻末には、次の学年につながるような資料が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習の事例数は、3年生2、4年生3、5年生6、6年生6であり、他者と比較して多い。また、本文中で学習した内容につながったものになっている。 	

◎:特に優れている。○:優れている

【観点4】 内容の表現・表記		【観点5】 言語活動の充実		
	⑧		⑨	
視点	本文記述と関連付けがなされたさし絵・写真・図表・キャラクター等の活用		自分の考えをまとめて書いたり、話し合ったりする活動	
方法	本文記述と関連付けたさし絵・写真・図表・キャラクター等の掲載内容		自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動の内容と数	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」の単元では、話し合う材料として、様々な場所の禁煙区域の写真が掲載されており、児童に課題意識をもたせることができる等の工夫がされている。 ・「体の発育」の単元では、導入で「自分の体の成長に気付くための、乳児期の靴と手形の写真」が掲載され、今の自分と乳幼児期を簡単に比較でき、自分の体がどのくらい大きくなったのかを実感できるような工夫がされている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「けんこうによいかんきょう」のまとめとして、4つの場面について正しくない理由を書かせるようになっている。 ・その後、2つの場面について、どのように環境を整えたら良いかを書かせ、まとめの話し合い活動ができるように設定されている。 ・単元全体を振り返り、学習した内容を定着させる部分と、学習した内容を活用させる部分の記述欄が設定されている。 	◎
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が、適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」に関する記述に、導入でたばこの煙によって、どのような体の変化が起こるか話し合ってみよう等、具体的な学習活動が示されている。 ・「体の発育」の単元では、導入で「入学時からの身長の変化を調べるための、作業用のグラフ」等のシールを切り取り、グラフにはってみる活動があり、身長の変化を実感できる工夫がされている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちのよい生活かんきょう」の導入において、問題点のある1枚の場面絵から、生活環境の改善について書かせることで、本時の課題に沿うように方向付けしている。 ・学習した内容から自分の生活において実践できる事例を書かせ、まとめの話し合い活動ができるようにしている。 ・授業の導入段階と学習した内容を活用させる段階で記述するためのスペースが設定されている。 	○
文教社	<ul style="list-style-type: none"> ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が、適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」の単元では、導入で「喫煙者の歯の写真」を基に考えさせたり、「肺の様子を表した写真」を比較させ、喫煙の怖さを実感させたりする等の工夫がされている。 ・「体の発育」の単元では、「入学時からの身長の変化を調べるための、作業用のグラフ」があり、色をぬり、身長の変化を実感できる工夫がされている。 ・「成長の個人差を示す、4人の成長のイラスト」が、発育の仕方が人によって違い、その時期が早い人も遅い人もいることを児童に分かりやすく表している。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「けんこうによい部屋」の導入においては、部屋の空気について3枚の場面絵にある問題点を記述させるようになっている。 ・健康に良い生活を送るために、自分の生活改善に目を向けさせ、やってみようと思うことを書かせ、まとめの話し合い活動ができるように設定されている。 	
光文	<ul style="list-style-type: none"> ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が掲載されているが、1ページに対する資料の掲載料が多い。 ・「喫煙の害」の単元では、導入で「喫煙による体への影響のイラスト」、「喫煙者と非喫煙者の肺や歯、歯茎の様子の写真」をもとに喫煙の怖さを実感させたりする等の工夫がされている。 ・「体の発育」の単元では、「身長の変化を示す図(0才、1才、3才、6才、9才)」、「成長の様子を示す写真とイラスト(1才、6才、10才、13才、20才)」をもとに、おとなになるまでの発育していく様子を見通しをもたせる工夫がされている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「部屋の明るさと空気」の導入において、部屋の明るさと空気について、問題点が書かれている場面絵を見ながら話し合いをするように設定されている。 ・考えを記述する箇所はないが、話し合いを通して課題をつかませるようになっている。 	
学研	<ul style="list-style-type: none"> ・本文記述に関連した写真、イラスト及びグラフ等が、適切に掲載されている。 ・「喫煙の害」の単元では、児童が興味をもって学習する材料として、「喫煙と手の血液の流れ」や「がんの危険性」等が取り上げられている。 ・「体の発育」の単元では、導入で「成長の個人差を示す、4人の成長のイラストとグラフ」、「入学時からの身長の変化を調べるための作業用のグラフ」をもとに、身長が大きく伸びている時期はいつか具体的に考えさせる等の工夫がされている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「身の回りのかんきょう」の導入において、実際に友達と部屋の明るさについて実験することで物の見え方の違いに気付かせ、児童が実感を持って言語活動が行えるようになっている。また、部屋の明るさと空気についての改善方法を書かせ、まとめの話し合いに活用できるように効果的な工夫がされている。 ・学習した内容を活用して実生活における課題を解決するため、自分の考えを記述する欄が設定されている。 	◎